

## 鍼灸学科・昼間部（1年生）

	授業科目名	担当教員名	時間数	単位数	コマ数
基礎分野	からだの仕組みⅠ	滝田 裕子	30	2	15
	からだの仕組みⅡ	滝田 裕子	30	2	15
	からだの働きⅠ	飯塚 正	30	2	15
	からだの働きⅡ	飯塚 正	30	2	15
	外国語	及川 陽子	30	2	15
	健康科学	山下 薫	30	2	15
	コミュニケーション	後藤 聡	30	2	15
専門基礎医学	解剖学Ⅰ	岸野 庸平	30	2	15
	解剖学Ⅱ	岸野 庸平	30	2	15
	解剖学Ⅲ	岸野 庸平	30	2	15
	生理学Ⅰ	伊藤 才二	30	2	15
	医療概論	長谷川 直子	15	1	7.5
専門分野	はりきゅう理論Ⅰ	松 永 満	30	2	15
	東洋医学概論Ⅰ	北林 亜由美	30	2	15
	東洋医学概論Ⅱ	北林 亜由美	30	2	15
	経絡経穴学概論Ⅰ	長谷川 直子	30	2	15
	経絡経穴学概論Ⅱ	山口 澄江	30	2	15
	あはきの適応の判断	伊藤 才二	30	2	15
	生体観察	山賀 真知子	30	2	15
	基礎実技Ⅰ	松 永 満	45	1	22.5
	基礎実技Ⅱ	山口 澄江	45	1	22.5
	基礎実技Ⅲ	長谷川 直子	45	1	22.5
	基礎実技Ⅳ	伊藤 才二	45	1	22.5
	総合領域Ⅰ	鍼灸学科全教員	180	6	90
合 計			915	47	457.5

## 鍼灸学科・昼間部・1年生（からだの仕組み I）

担当教員	瀧田 裕子	単位・時間	2 単位・30 時間（15 コマ）
教育目標	この授業でからだの基礎的なしくみを学ぶことにより、からだの構造と機能について理解を深める。また再生医療などの最先端の生命科学に関連するニュースなどについてその背景も含めて、現状を正しく把握する力をつけていく。		
授業内容	以下の項目について講義する  1. からだの構造と基礎的なしくみ 2. からだの設計図 3. からだを維持するしくみ 4. からだを構成する物質 5. からだの寿命		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業への出席が 3 分の 2 以上を満たした者についてのみ試験を実施する。</li> <li>・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。</li> <li>・ 再試験は授業時間外に実施する。</li> <li>・ 中間試験は行わない。</li> <li>・ 成績評価にあたっては試験成績を基に判定する。</li> <li>・ 成績は以下の 5 段階で評価し、「可」以上を合格とする。                      「秀」：90～100 点 「優」：80～89 点 「良」：70～79 点 「可」：60～69 点                      「不可」：59 点以下</li> </ul>		

教科書	配布プリント	著者名	
		出版社名	
参考書	みんなの生命科学	著者名	北口哲也 他
		出版社名	化学同人

回	講義内容	備考
1	生物とは、生命とは	
2	からだの構造	
3	細胞とは	
4	細胞内小器官	
5	DNA の構造とセントラルドグマ	
6	からだの設計図 (ゲノム)	
7	からだを維持するしくみ 1	
8	からだを維持するしくみ 2	
9	からだを構成する物質 (糖質)	
10	からだを構成する物質 (脂質)	
11	からだを構成する物質 (タンパク質)	
12	からだを構成する物質 (ビタミン・ミネラル)	
13	からだの寿命	
14	期末試験	
15	試験問題の解説	

## 鍼灸学科・昼間部・1年生（からだの仕組み II）

担当教員	瀧田 裕子	単位・時間	2 単位・30 時間（15 コマ）
教育目標	<p>からだの仕組み I で学んだことを基礎にし、からだの組織について学習する。それにより複雑で多肢にわたるからだの機能について理解を深める。また受精とヒトの発生のしくみ、外敵に対する生体防御のしくみについて学び、医療専門分野に進む前の基礎知識を習得する。</p>		
授業内容	<p>以下の項目について講義する</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. からだを構成する組織（上皮・結合・筋肉・神経）</li> <li>2. ヒトの受精</li> <li>3. ヒトの発生</li> <li>4. からだを外敵から守るしくみ</li> </ol>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験を実施する。</li> <li>・期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。</li> <li>・再試験は授業時間外に実施する。</li> <li>・中間試験は行わない。</li> <li>・成績評価にあたっては試験の成績を基に判定する。</li> <li>・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下</li> </ul>		

教科書	配布プリント	著者名	
		出版社名	
参考書	みんなの生命科学	著者名	北口哲也 他
		出版社名	化学同人

回	講義内容	備考
1	からだの組織の概要	
2	上皮組織 1	
3	上皮組織 2	
4	結合組織 1	
5	結合組織 2	
6	筋組織 1	
7	筋組織 2	
8	神経組織 1	
9	神経組織 2	
10	ヒトの受精	
11	ヒトの発生	
12	生体防御のしくみ 1	
13	生体防御のしくみ 2	
14	期末試験	
15	試験問題の解説	

## 鍼灸学科・昼間部・1年生（からだの働きⅠ）

担当教員	飯塚 正	単位・時間	2 単位・30 時間（15 コマ）
教育目標	この授業の目的は、医学の初学生である1年次学生が、人体の正常な構造と機能、特に生殖器系および泌尿器系を統合的に理解し、他の基礎科目や専門科目を学ぶ上での基礎を確立することにある。		
授業内容	<p>以下の内容について講義する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生殖器系の構造と機能</li> <li>2. 男性の生殖器</li> <li>3. 女性の生殖器</li> <li>4. 泌尿器系の構造と機能</li> <li>5. 腎臓と働きと尿生成</li> <li>6. 泌尿器系の一般的な作用機序</li> </ol>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。</li> <li>・ 期末試験は授業時間内（授業の最終日）に実施する。</li> <li>・ 再試験は授業時間外に実施する。</li> <li>・ なお、中間試験や授業時間内で小テストを行うこともある。期末試験、中間試験、小テストなどを合計し100点満点で成績を評価する。</li> <li>・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。  「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点  「不可」：59点以下</li> </ul>		

教科書	『解剖学』、『生理学』	著者名	
		出版社名	
参考書	プリントを配布	著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	性分化、2次性徴	
2	男性生殖器、精子形成	
3	女性生殖器 1	
4	女性生殖器 2、性周期	
5	受精、妊娠、胎盤	
6	生殖器疾患、遺伝	
7	中間試験	
8	中間試験の解説	
9	腎解剖、ネフロン	
10	腎機能	
11	尿管、膀胱、尿道	
12	排尿仕組み	
13	泌尿器疾患	
14	期末試験	
15	期末試験の解説	

## 鍼灸学科・昼間部・1年生（からだの働きⅡ）

担当教員	飯塚 正	単位・時間	2単位・30時間（15コマ）
教育目標	この授業の目的は、医学の初学生である1年次学生が、人体の正常な構造と機能、特に呼吸器系および内分泌系を統合的に理解し、他の基礎科目や専門科目を学ぶ上での基礎を確立することにある。		
授業内容	<p>以下の内容について講義する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 鼻腔・咽頭・喉頭・気管(支)・肺の構造と機能</li> <li>2. 肺胞におけるガス交換・換気量</li> <li>3. ホルモンの一般的な作用機序</li> <li>4. 各ホルモンの作用</li> </ol>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。</li> <li>・期末試験は授業時間内（授業の最終日）に実施する。</li> <li>・再試験は授業時間外に実施する。</li> <li>・なお、中間試験や授業時間内で小テストを行うこともある。期末試験、中間試験、小テストなどを合計し100点満点で成績を評価する</li> <li>・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。  「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点  「不可」：59点以下</li> </ul>		

教科書	『解剖学』、『生理学』	著者名	
		出版社名	
参考書	プリントを配布	著者名	
		出版社名	



回	講義内容	備考
1	鼻腔、喉頭	
2	気管、肺	
3	肺胞、呼吸運動	
4	呼吸機能、酸素解離、換気	
5	呼吸調節	
6	呼吸器疾患	
7	中間試験	
8	中間試験の解説	
9	ホルモン概要、視床下部	
10	下垂体・松果体	
11	甲状腺・上皮小体、膵臓	
12	副腎・性腺	
13	消化管、腎臓	
14	期末試験	
15	期末試験の解説	

## 鍼灸学科・昼間部・1年生（外国語）

担当教員	及川 陽子	単位・時間	2 単位・30 時間（15 コマ）
教育目標	<p>国際化する社会において、医療の世界にも外国人への医療行為が必要となってきた。ただしそれは必ずしも難解な知識や概念を必要とするものではない。この講義では、医療に関する語彙を知り、現場での医療行為に役立つ基本的な英語力を身につけることを目標とする。</p>		
授業内容	<p>英語という言語を使っての他者とのコミュニケーション力をつけるため、医療の現場で実際に使われる英会話を学ぶ。                  具体的には、基本的な文法の確認、医学英語の基礎知識をふまえた上で                  「英語を聞く」                  「英語を読む」                  「英語を話す」練習をする。</p> <p>「英語を書く」ことも視野にいれ、適宜、資料を配布し、課題や小テストを行う。</p>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業への出席が 3 分の 2 以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。</li> <li>・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。</li> <li>・ 再試験は授業時間外に実施する。</li> <li>・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。</li> <li>・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。</li> <li>・ 成績は以下の 5 段階で評価し、「可」以上を合格とする。                      「秀」：90～100 点 「優」：80～89 点 「良」：70～79 点 「可」：60～69 点                      「不可」：59 点以下</li> </ul>		

教科書	Basic English for Medical Care	著者名	Hiromi Koga
		出版社名	Yumi Press
参考書		著者名	

回	講義内容
1	はじめに・自己紹介する・挨拶する
2	案内は分かりやすくする
3	個人情報聞きとり管理する
4	指示や依頼をする
5	相手を見て対応する
6	確認・質問事項を準備する
7	アレルギーや紹介状の有無を確認する
8	行為をうながす
9	的確な指示のもとで援助する
10	説明は丁寧にする
11	食物摂取は治療の一環と心得る
12	患者の言うことに耳を傾ける
13	電話対応は短くする
14	会計に関する質問に答える
15	筆記試験

## 鍼灸学科・昼間部・1年生（健康科学）

担当教員	山下 薫	単位・時間	2単位・30時間（15コマ）
教育目標	健康に恵まれ、楽しく豊かな生涯を送りたいとの願いは誰もが持っている。日々の生活に潤いと充実感をもたらし、一人ひとりが生き生きとした生活をするためには個々に応じた適切な運動やスポーツ活動は欠かせないものである。本授業でのストレッチングはスポーツ障害を起こさない準備運動として開発されたが、現在医学の分野でも大きな効果を上げている。目的に合った正しいストレッチングを理解させ、習得させる。合わせて『アダブテッドスポーツ』を理解するうえでシッティングバレーボールを体験する。		
授業内容	<p>学生の年齢構成や男女混成であること、施設がてま柔道場であることを考慮し、ストレッチングの基本的な知識・技術の習得を行う。また、ボール運動を通して、体幹トレーニング及び事前事後のストレッチングを体験させる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ストレッチングの基本編</li> <li>2. ストレッチングの応用編</li> <li>3. ペアストレッチング</li> <li>4. 障害予防の筋力トレーニング+ストレッチング</li> <li>5. 体幹トレーニング</li> <li>6. シッティング・バレーボール</li> </ol>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。</li> <li>・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。</li> <li>・ 再試験は授業時間外に実施する。</li> <li>・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。</li> <li>・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。</li> <li>・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。  「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点  「不可」：59点以下</li> </ul>		

教科書	なし	著者名	
		出版社名	
参考書		著者名	
		出版社名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	ストレッチングとアダプテッドスポーツの考え方	
2	ストレッチング①（手、腕、首）、シッテング・ハレホール	
3	ストレッチング②（肩、背中）、シッテング・ハレホール	
4	ストレッチング③（胸、脇腹、腰）、シッテング・ハレホール	
5	ストレッチング④（股関節、お尻、太もも）、シッテング・ハレホール	
6	ストレッチング⑤（姿勢矯正、肩こり、五十肩）、シッテング・ハレホール	
7	ストレッチング⑥（腰痛、ひざ痛、冷え、便秘）、シッテング・ハレホール	
8	ストレッチング⑦（ストレス、むくみ、たるみ）、シッテング・ハレホール	
9	ストレッチング⑧（コンディショニング基本）、シッテング・ハレホール	
10	ストレッチング⑨（スポーツ全般基本）、シッテング・ハレホール	
11	ストレッチング⑩（ゴルフ、バースポール）、シッテング・ハレホール	
12	ストレッチング⑪（サッカー、バスケ、バレー）、シッテング・ハレホール	
13	ストレッチング⑫（ダイナミックストレッチメソッド）、シッテング・ハレホール	
14	ストレッチング⑬（ペアストレッチ）、シッテング・ハレホール	
15	到達度チェック	

## 鍼灸学科・昼間部・1年生（コミュニケーション）

担当教員	後 藤 聡	単位・時間	2 単位・30 時間（20 コマ）
教育目標	<p>コミュニケーションとは情報伝達という意味であり、臨床場面には不可欠である。臨床の対象になる人間と良好な関係を維持するためには、相手を理解することだけでは不十分である。人間関係や社会とのコミュニケーションを通じて生じる心理現象を知り、相手や自分に及ぼすその影響などを理解すること、自分の聴き方と話し方が相手に対してどのように影響するのかに気づき、必要に応じて自分を望ましい方向へ調整することも必要である。以上を考慮して本講義の目標を以下とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎日常の人間関係におけるコミュニケーションから生じる心理現象について広く理解する。</li> <li>◎個人との人間関係や社会生活において影響を受けるコミュニケーションについて理解する。</li> <li>◎臨床場面で不安や悩みなどを抱える人と良好な関係を形成、維持するために必要な対話を実践できる応用的な知識を身につける。</li> </ul>		
授業内容	<p>コミュニケーションは多岐にわたっており、人間以外の動物社会にも存在するが、本授業では人間社会に限定する。人間間のコミュニケーション、社会とのコミュニケーション、カウンセリングにおけるコミュニケーションに分類し、日常の人間関係や社会との関わりで生じる心理現象、カウンセリングという人間関係における話の聴き方について論じる。毎回異なったテーマを設け、理論、具体的事例、科学的根拠となる実証的研究成果を含めて、アクティビティや発問などを取り入れながら授業を展開する。</p>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験を実施する。</li> <li>・期末試験は授業時間内に実施する。</li> <li>・再試験は期末試験終了後、授業時間外に実施する。</li> <li>・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。</li> <li>・試験等には試験の他に提出物を含む。</li> <li>・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下</li> </ul>		

教科書	なし	著者名	
		出版社名	
参考書	なし	著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	授業の概要説明・思考のトレーニング	
2	I 人間間のコミュニケーション (1) 対人コミュニケーション	
3	(2) 自己呈示	
4	(3) ステレオタイプ	提出物あり
5	(4) 対人認知	提出物あり
6	(5) 援助	提出物あり
7	(6) 攻撃	提出物あり
8	II 社会とのコミュニケーション (1) 社会的現実	提出物あり
9	(2) うわさ	
10	(3) 社会的ジレンマ	提出物あり
11	(4) 社会の中の誤り	提出物あり
12	III カウンセリングにおけるコミュニケーション (1) カウンセリングとは	提出物あり
13	(2) カウンセリングにおける基本的態度 1	提出物あり
14	(3) カウンセリングにおける基本的態度 2	提出物あり
15	期末試験	

## 鍼灸学科・昼間部・1年生（解剖学Ⅰ）

担当教員	岸 野 庸 平	単位・時間	2 単位・30 時間（15 コマ）
教育目標	<p>この授業の目的は、医学の初学生である1年次学生が、人体の正常な構造と機能、特に身体を支持する骨・関節および運動に関わる骨格筋を統合的に理解し、他の基礎科目や専門科目を学ぶ上での基礎を確立することにある。</p>		
授業内容	<p>以下の内容について講義する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 運動器系概要</li> <li>2. 骨について</li> <li>3. 関節について</li> <li>3. 骨格筋について</li> <li>4. その他の筋について</li> </ol>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。</li> <li>・期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。</li> <li>・再試験は授業時間外に実施する。</li> <li>・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。</li> <li>・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。</li> <li>・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下</li> </ul>		

教科書	解剖学	著者名	全国柔道整復学校協会
		出版社名	医歯薬出版
参考書		著者名	
		出版社名	



回	講義内容	備考
1	運動器系概要	
2	全身の骨格 1	
3	全身の骨格 2	
4	体幹の筋	
5	体幹の運動	
6	体幹の局所解剖	
7	上肢の筋	
8	上肢の運動	
9	上肢の局所解剖	
10	下肢の筋	
11	下肢の運動	
12	下肢の局所解剖	
13	頭頸部の筋	
14	頭頸部の局所解剖	
15	期末試験	

## 鍼灸学科・昼間部・1年生（解剖学Ⅱ）

担当教員	岸 野 庸 平	単位・時間	2 単位・30 時間（15 コマ）
教育目標	この授業の目的は、医学の初学生である1年次学生が、人体の正常な構造と機能、特に神経系および感覚器系を統合的に理解し、他の基礎科目や専門科目を学ぶ上での基礎を確立することにある。		
授業内容	<p>以下の内容について講義する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 神経の基本構造・組織構造</li> <li>2. 中枢神経系</li> <li>3. 末梢神経系</li> <li>4. 感覚器</li> </ol>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。</li> <li>・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。</li> <li>・ 再試験は授業時間外に実施する。</li> <li>・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。</li> <li>・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。</li> <li>・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。  「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点  「不可」：59点以下</li> </ul>		

教科書	解剖学	著者名	全国柔道整復学校協会
		出版社名	医歯薬出版・南江堂
参考書		著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	組織の構造	
2	中枢神経系(脊髄)	
3	中枢神経系(脳幹)	
4	中枢神経系(小脳)	
5	中枢神経系(間脳)	
6	中枢神経系(大脳)	
7	中枢神経系(脳室系)	
8	末梢神経(脳神経1)	
9	末梢神経(脳神経2)	
10	末梢神経(脊髄神経)	
11	末梢神経(自律神経1)	
12	末梢神経(自律神経2)	
13	感覚器系1	
14	感覚器系2	
15	期末試験	

## 鍼灸学科・昼間部・1年生（解剖学Ⅲ）

担当教員	岸 野 庸 平	単位・時間	2 単位・30 時間（15 コマ）
教育目標	この授業の目的は、医学の初学生である1年次学生が、人体の正常な構造と機能、特に循環器系および消化器系を統合的に理解し、他の基礎科目や専門科目を学ぶ上での基礎を確立することにある。		
授業内容	<p>以下の内容について講義する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 循環器系および消化器系の基本的組織構造</li> <li>2. 心臓と刺激伝導系</li> <li>3. 動脈・静脈・リンパ系（脾臓を含む）</li> <li>4. 口腔・咽頭・食道・胃・十二指腸・空腸・回腸・結腸・直腸・肛門</li> <li>5. 唾液腺、肝臓、胆嚢、膵臓</li> </ol>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。</li> <li>・期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。</li> <li>・再試験は授業時間外に実施する。</li> <li>・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。</li> <li>・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。</li> <li>・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下</li> </ul>		

教科書	解剖学	著者名	全国柔道整復学校協会
		出版社名	医歯薬出版
参考書		著者名	

回	講義内容	備考
1	循環器系の基本的組織構造	
2	心臓 1	
3	心臓 2	
4	動脈系	
5	静脈系	
6	胎児循環	
7	リンパ系	
8	消化器系の基本的組織構造	
9	口腔・咽頭	
10	食道・胃	
11	小腸・大腸	
12	肝臓・胆嚢	
13	膵臓	
14	腹膜	
15	期末試験	

## 鍼灸学科・昼間部・1年生（生理学Ⅰ）

担当教員	伊藤 才二	単位・時間	2単位・30時間（15コマ）
教育目標	この授業の目的は、医学の初学生である1年次学生が、人体の正常な生理機能、特に生体防衛および体温・血圧・電解質・血糖値などをはじめとする人体の恒常性（ホメオスタシス）を統合的に理解し、他の基礎科目や専門科目を学ぶ上での基礎を確立することにある。		
授業内容	<p>以下の内容について講義する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 血液と血球の機能</li> <li>2. 凝固系および線溶系</li> <li>3. 免疫系に関する細胞・因子</li> <li>4. 体液性免疫と細胞性免疫</li> <li>5. アレルギー</li> <li>6. 栄養と代謝</li> <li>7. 体温調節</li> <li>8. 血圧調節</li> <li>9. 電解質調節</li> <li>10. 血糖値の調節</li> <li>11. 生体リズム</li> </ol>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。</li> <li>・期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。</li> <li>・再試験は授業時間外に実施する。</li> <li>・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。</li> <li>・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。</li> <li>・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。  「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点  「不可」：59点以下</li> </ul>		

教科書	生理学	著者名	全国柔道整復学校協会
		出版社名	南江堂
参考書		著者名	

回	講義内容	備考
1	血液の組成と働き 1	
2	血液の組成と働き 2	
3	凝固系および線溶系	
4	免疫系に関する細胞・因子	
5	体液性免疫と細胞性免疫	
6	アレルギーおよび自己免疫疾患	
7	栄養と代謝	
8	中間試験	
9	体温の調節	
10	血圧と血液量の調節	
11	体液の電解質調節	
12	血糖値の調節	
13	バイオリズム	
14	期末試験	
15	まとめ	

## 鍼灸学科・昼間部・1年生（医療概論）

担当教員	長谷川 直子	単位・時間	1 単位・15 時間（7.5 コマ）
教育目標	医療の歴史を学びながら、はり師・きゅう師として必要な医療倫理を身につけ、社会に貢献できる資質を育成する。		
授業内容	以下の項目について講義する ・歴史を通して現代の医療を考察する ・施術者としての倫理観を育成する		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。</li> <li>・期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。</li> <li>・再試験は授業時間外に実施する。</li> <li>・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。</li> <li>・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。</li> <li>・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。                      「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点                      「不可」：59点以下</li> </ul>		

教科書	医療概論	著者名	中川米造監修
		出版社名	医歯薬出版
参考書		著者名	
		出版社名	



回	講義内容	備考
1	現代の医学と医療・医療と社会・鍼灸の適応	
2	医療従事者と医療経済・医療保険の仕組み	
3	公費医療負担・介護サービス・医療倫理	
4	練習問題	
5	練習問題	
6	練習問題	
7	練習問題	
7.5	期末試験	

## 鍼灸学科・昼間部・1年生（はりきゅう理論Ⅰ）

担当教員	松 永 満	単位・時間	2 単位・30 時間（15 コマ）
教育目標	<p>本講では、主に鍼灸の基礎知識の理解を目的とする。鍼灸は本来、東洋医学として発展してきたが、その治効理論を現代医学的に解明することは、非常に大切である。したがって、まず「はりきゅう理論Ⅰ」では、その治効理論を学ぶための基礎となる、鍼灸の施術方法、リスク管理、人体の感覚機能等についての理解を深めていく。</p>		
授業内容	<p>鍼灸の基礎知識として、鍼灸の概論、用具、施術方法、刺激量、感受性、適応症、禁忌、リスク管理、痛み感覚、温度感覚、触圧感覚等を学習していく。</p>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業への出席が 3 分の 2 以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。</li> <li>・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。</li> <li>・ 再試験は授業時間外に実施する。</li> <li>・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。</li> <li>・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。</li> <li>・ 成績は以下の 5 段階で評価し、「可」以上を合格とする。  「秀」：90～100 点 「優」：80～89 点 「良」：70～79 点 「可」：60～69 点  「不可」：59 点以下</li> </ul>		

教科書	はりきゅう理論	著者名	東洋療法学校協会 教科書執筆小委員会
		出版社名	医道の日本社
参考書		著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	鍼の基礎知識	
2	刺鍼の方式と術式	
3	特殊鍼法	
4	灸の基礎知識	
5	灸術の種類	
6	鍼灸の臨床応用	
7	中間試験	
8	試験解説	
9	リスク管理Ⅰ	
10	リスク管理Ⅱ	
11	鍼灸治効の基礎 痛み感覚の受容と伝導Ⅰ	
12	鍼灸治効の基礎 痛み感覚の受容と伝導Ⅱ	
13	鍼灸治効の基礎 温度感覚の受容と伝導	
14	鍼灸治効の基礎 触圧感覚の受容と伝導	
15	期末試験	

## 鍼灸学科・昼間部・1年生（東洋医学概論Ⅰ）

担当教員	北林 亜由美	単位・時間	2単位・30時間（15コマ）
教育目標	<p>東洋医学概論は東洋医学の診断、分析、そして治療に最も基礎な科目である。当科目においては、東洋医学の根幹であり、理解できなければ、将来、臨床現場で正しく診断、そして質の高い鍼灸診療活動はできない。この一年間で、この東洋医学の基礎理論、臓象（臓腑の生理機能）とその病理病証、または、経絡の基本的な病証を学ぶ。</p>		
授業内容	<p>以下の項目について講義する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 東洋医学理論の基礎</li> <li>・ 整体観念や精気・陰陽・五行の諸学説</li> <li>・ 東洋医学的な人体の捉え方である蔵象と病因・病機</li> </ul>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。</li> <li>・ 期末試験は授業時間内（原則として授業最終回一つ前の授業）に実施する。</li> <li>・ 再試験は授業時間外に実施する。</li> <li>・ 必要に応じて授業時間内に中間試験を実施する。</li> <li>・ 成績評価にあたっては、①中間テストの成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。</li> <li>・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。  「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点  「不可」：59点以下</li> </ul>		

教科書	東洋医学概論	著者名	教科書執筆小委員会 著
		出版社名	医道の日本社
参考書	鍼灸学〔基礎編〕	著者名	劉 公望 ・ 兵頭 明
		出版社名	東洋学術出版社

回	講義内容	備考
1	東洋医学の沿革・起源・発展	
2	陰陽学説	
3	五行学説	
4	精と神・気・血・津液の生理作用	
5	気・血の病理	
6	津液・陰陽の病理	
7	中間試験	
8	蔵象学説（肝・心）	
9	蔵象学説（脾・肺）	
10	蔵象学説（腎）	
11	蔵象学説（胆・小腸・胃・大腸・膀胱・三焦）	
12	病因病機①	
13	病因病機②	
14	まとめ	
15	期末試験	

## 鍼灸学科・昼間部・1年生（東洋医学概論Ⅱ）

担当教員	北林 亜由美	単位・時間	2単位・30時間（15コマ）
教育目標	<p>東洋医学概論は東洋医学の診断、分析、そして治療に最も基礎な科目である。当科目においては、東洋医学の根幹であり、理解できなければ、将来、臨床現場で正しく診断、そして質の高い鍼灸診療活動はできない。この一年間で、この東洋医学の基礎理論、臓象（臓腑の生理機能）とその病理病証、または、経絡の基本的な病証を学ぶ。</p>		
授業内容	<p>以下の項目について講義する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・患者に現れている症状や徴候といった変化の把握</li> <li>・弁証論治の根拠となる四診</li> </ul>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。</li> <li>・期末試験は授業時間内（原則として授業最終回一つ前の授業）に実施する。</li> <li>・再試験は授業時間外に実施する。</li> <li>・必要に応じて授業時間内に中間試験を実施する。</li> <li>・成績評価にあたっては、①中間テストの成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。</li> <li>・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。  「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点  「不可」：59点以下</li> </ul>		

教科書	東洋医学概論	著者名	教科書執筆小委員会 著
		出版社名	医道の日本社
参考書	鍼灸学 [基礎編]	著者名	劉 公望 ・ 兵頭 明
		出版社名	東洋学術出版社

回	講義内容	備考
1	八綱の概要	
2	気・血・津液・陰陽の病理	
3	五臓の病証	
4	五臓の病証	
5	五臓の病証	
6	六腑の病証	
7	中間試験	
8	複合病証	
9	経絡病証	
10	奇経八脈病証	
11	六経弁証	
12	衛気營血弁証	
13	三焦弁証	
14	まとめ	
15	期末試験	

## 鍼灸学科・昼間部・1年生（経絡経穴学概論 I）

担当教員	長谷川 直子	単位・時間	2 単位・30 時間（15 コマ）
教育目標	<p>経絡経穴学概論は鍼灸師にとって基本的な知識です。</p> <p>本講義においては人体における経絡と経穴の関係を解剖学的位置関係とともに理解させることを目的とします。</p>		
授業内容	<p>以下の項目について講義する。</p> <p>教科書に基づき十四経の流注と、361 穴の経穴の名称・所属経絡と取穴部位等を学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経絡・経穴の基礎</li> <li>・正経十二経脈</li> </ul>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への出席が 3 分の 2 以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。</li> <li>・期末試験は授業時間内に実施する。</li> <li>・再試験は授業時間外に実施する。</li> <li>・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。</li> <li>・成績評価にあたっては小テスト、中間試験、期末試験の結果、平均得点数が 60 点以上のものを合格とする。</li> </ul> <p>「秀」：90～100 点 「優」：80～89 点 「良」：70～79 点 「可」：60～69 点 「不可」：59 点以下</p>		
教科書	新版 経絡経穴概論	著者名	東洋療法学校協会
		出版社名	医道の日本社
参考書		著者名	
		出版社名	医歯薬出版



回	講義内容	備考
1	経絡の概要	
2	督脈（38 穴）・任脈（24 穴）	
3	手の太陰肺経（11 穴）手の陽明大腸経（20 穴）	
4	足の陽明胃経（45 穴）	
5	足の太陰脾経（21 穴）	
6	まとめ	
7	中間試験	
8	手の少陰心経（9 穴）手の太陽小腸経（19 穴）	
9	足の太陽膀胱経（67 穴）①	
10	足の少陰腎経（27 穴）	
11	手の厥陰心包経（9 穴）手の少陽三焦経（23 穴）	
12	足の少陽胆経（44 穴）	
13	足の厥陰肝経（14 穴）	
14	まとめ	
15	期末試験	

## 鍼灸学科・昼間部・1年生（経絡経穴学概論Ⅱ）

担当教員	山口 澄江	単位・時間	2単位・30時間（15コマ）
教育目標	経絡経穴学概論Ⅰで習ったことを踏まえ、さらに各経穴の取穴方法、骨・筋や血管・神経との関連を確実に覚えていく。		
授業内容	①経穴と関連する骨・筋の確認 ②経穴と関連する血管・神経の確認 ③経穴のまとめ（横並びなど） ④習熟度確認のため小テストを行う		
成績評価	・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては小テスト、中間試験、期末試験の結果、平均得点数が60点以上のものを合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下		
教科書	新版 経絡経穴概論	著者名	東洋療法学校協会
		出版社名	医道の日本社
参考書		著者名	
		出版社名	医歯薬出版

回	講義内容	備考
1	奇経八脈と奇穴	
2	上肢帯（肩周囲）の解剖と経穴	
3	上腕の解剖と経穴	
4	前腕の解剖と経穴	
5	手の解剖と経穴/上肢の横並び	
6	下肢帯（殿部周囲）の解剖と経穴	
7	中間試験	
8	大腿部の解剖と経穴	
9	下腿の解剖と経穴	
10	足の解剖と経穴/下肢の横並び	
11	頭頸部の解剖と経穴	
12	顔面部の解剖と経穴	
13	胸背部の解剖と経穴①	
14	胸背部の解剖と経穴②	
15	期末試験	

## 鍼灸学科・昼間部・1年生（あはきの適応の判断）

担当教員	伊藤 才二	単位・時間	2単位・30時間（15コマ）
教育目標	<p>現代医学と東洋医学の基礎理論、および臨床の知識は、将来、医療現場で医療従事者として必要不可欠である。しかしながら臨床現場では、複合的な持病をもっている患者もやって来る。正しく対応するためには、正しい適応判断が必要である。当科目においては、臨床現場で正しく診断、そして質の高い診療活動が出来るよう、適応不適応の判断が出来るようになることが目的である。</p>		
授業内容	<p>一般に患者が治療を受けることによって症状が緩解したとき鍼灸の適応があったといい、逆に鍼灸治療を行っても変化がないか、或いはかえって悪化したような場合、不適応という。本授業は、過去の症例集をもとに、いかにして疾患の不適応を鑑別し、そしてどのように対策したのかを学んでいくものとする。</p>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。</li> <li>・ 期末試験は授業時間内（原則として授業最終回一つ前の授業）に実施する。</li> <li>・ 再試験は授業時間外に実施する。</li> <li>・ 必要に応じて授業時間内に中間試験を実施する。</li> <li>・ 成績評価にあたっては、①期末テストの成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。</li> <li>・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。  「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点  「不可」：59点以下</li> </ul>		

教科書	配布プリント	著者名	
		出版社名	
参考書	鍼灸不適応疾患の鑑別と対策	著者名	代田文彦ほか
		出版社名	医道の日本社

回	講義内容	備考
1	鍼灸治療の適応を決める歴史	
2	鍼灸治療の適応を決めるための条件	
3	運動器系不応疾患の症例①	
4	運動器系不応疾患の症例②	
5	運動器系不応疾患の症例③	
6	神経系不応疾患の症例	
7	内科系不応疾患の症例①	
8	内科系不応疾患の症例②	
9	癌の不応疾患の症例	
10	産婦人系不応疾患の症例	
11	その他の不応疾患の症例①	
12	その他の不応疾患の症例②	
13	その他の不応疾患の症例③	
14	まとめ	
15	期末試験	

## 鍼灸学科・昼間部・1年生（生体観察）

担当教員	山賀 真知子	単位・時間	2単位・30時間（15コマ）
教育目標	<p>鍼灸師が行う診察と治療は、すべて皮膚を介して行われる。 したがって、今自分が触れている皮膚の下層に何があるのかが分からなければ、診察も治療も全くできないことは自明の理である。 そこで本授業では、体表から触知することのできる骨・筋・腱・神経・血管について、これらの構造物がどの位置に、またどの位の深さにあるのかを、実践を通して習得させることを教育目標とする。</p>		
授業内容	<p>本授業では、以下の内容について講義するが、受講にあたっては、①人体を構成する骨および骨の部位の名称、および②人体の主要な骨格筋の名称および起始・停止・作用に関する基礎知識が要求されるので、事前にしっかりと予習しておくこと。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 頭顔面部</li> <li>2. 頸 部</li> <li>3. 体 幹</li> <li>4. 上 肢</li> <li>5. 下 肢</li> </ol>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。</li> <li>・ 期末試験は授業時間内（授業の最終日）に実施する。</li> <li>・ 再試験は授業時間外に実施する。</li> <li>・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。</li> <li>・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下</li> </ul>		

教科書	解剖学	著者名	
		出版社名	
参考書	プリントを配布	著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	運動器とは	小テスト
2	上肢帯・肩	小テスト
3	上腕・前腕	小テスト
4	手	小テスト
5	中間試験①	
6	大腿	小テスト
7	下腿	小テスト
8	足	小テスト
9	体幹	小テスト
10	頭顔頸部	小テスト
11	中間試験②	
12	上肢まとめ	小テスト
13	下肢まとめ	小テスト
14	体幹・頭顔頸部まとめ	小テスト
15	期末試験	

## 鍼灸学科・昼間部・1年生（基礎実技Ⅰ）

担当教員	松 永 満	単位・時間	1 単位・45 時間（22.5 コマ）
教育目標	<p>鍼灸臨床において必要な鍼技術の修練と知識を習得するために、鍼灸師が熟知しておかなければならない感染防止対策、治療過誤の防止を学び、基本的な鍼実技を繰り返し行い、安全でスムーズな刺鍼を体得する。</p> <p>まずは、感染防止対策を学び、基本的な刺鍼手技を体得する。次に、人に対して、各体位で正確で安全に刺鍼できることを目標とする。</p>		
授業内容	<p>主に、以下の項目について学んでいく。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 消毒などの公衆衛生知識</li> <li>2. 鍼灸治療の過誤と副作用、予防、処置</li> <li>3. 挿管法（両手挿管法、片手挿管法）</li> <li>4. 刺鍼の知識（前揉法、押手、切皮、刺入、後揉法）</li> <li>5. 各種刺法とシリコンゴムへの刺入</li> </ol> <p>※触診・取穴は、特に下肢の骨・筋肉を重点的に行う。</p>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。</li> <li>・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。</li> <li>・ 再試験は授業時間外に実施する。</li> <li>・ 成績評価にあたっては、①試験成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。</li> </ul> <p>・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。</p> <p>「秀」：90～100点  「優」：80～89点  「良」：70～79点  「可」：60～69点  「不可」：59点以下</p>		

教科書	資料配付		
参考書	図解 鍼灸臨床手技マニュアル	著者名	尾崎昭弘 他
		出版社名	医歯薬出版株式会社



回	講義内容	備考
1	オリエンテーション	
2	手指および刺鍼部の消毒	
3	鍼具の消毒法・滅菌法	
4	鍼治療の過誤と副作用、予防と処置	
5	現行刺鍼の方法（管鍼法の操作）	
6	刺鍼手技①（単刺術、直刺、斜刺、横刺）	
7	刺鍼手技②（置鍼術、雀啄術）	
8	刺鍼手技③（回旋術、旋撚術、刺鍼転向法）	
9	刺入の手順（各自の足への刺入）	
10	各自の足への刺入	
11	各自の足への刺入	
12	中間試験①	
13	中間試験②	
14	刺入の手順（他人への手足への刺入）	
15	足への刺鍼（胃経への刺鍼）	
16	手への刺入（大腸経への刺鍼）	
17	足への刺入（脾経への刺鍼）	
18	手への刺入（心包経、三焦経への刺鍼）	
19	手足への刺鍼まとめ	
20	手足への刺鍼まとめ	
21	期末試験①	
22	期末試験②	
22.5	まとめ	

## 鍼灸学科・昼間部・1年生（基礎実技Ⅱ）

担当教員	山 口 澄 江	単位・時間	1 単位・45 時間（22.5 コマ）
教育目標	<p>灸施術に関する基本的な知識と技術を習得するために、基礎練習を繰り返し行い、安全でスムーズな施術を体得する。</p> <p>まずは施灸板で米粒大と半米粒大を正確に作成し、点火する。次に人に対して、各体位で施灸し、最終的に手足の要穴に対して、正確で安全に施灸できることを目標とする。</p>		
授業内容	<p>主に、以下の項目について学んでいく。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 灸の概要（起源、分類、製造過程、灸治療の過誤と副作用、予防、処置）</li> <li>2. 練習板を使い、米粒大・半米粒大を5分間で20壮施灸</li> <li>3. 有根灸（透熱灸、知熱灸〔瞬間灸〕）</li> <li>4. 上肢の要穴の取穴と施灸。</li> </ol>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。</li> <li>・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。</li> <li>・ 再試験は授業時間外に実施する。</li> <li>・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。</li> <li>・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。  「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点  「不可」：59点以下</li> </ul>		

教科書	資料配付		
参考書	図解 鍼灸臨床手技マニュアル	著者名	尾崎昭弘 他
		出版社名	医歯薬出版株式会社

回	講義内容	備考
1	オリエンテーション	
2	手指洗浄と消毒、板を使つての施灸練習	
3	艾炷の点火、5分で10 壮練習	
4	5分で10 壮練習	
5	5分で10 壮練習	
6	5分で15 壮練習	
7	5分で15 壮練習	
8	到達試験①	
9	自分の身体への施灸	
10	5分で20 壮練習	
11	5分で20 壮練習	
12	中間試験①	
13	中間試験②	
14	他人の身体への施灸	
15	他人の身体への施灸	
16	他人の身体への施灸	
17	他人の身体への施灸	
18	他人の身体への施灸	
19	他人の身体への施灸	
20	他人の身体への施灸	
21	期末試験①	
22	期末試験②	
22.5	期末試験③	

## 鍼灸学科・昼間部・1年生（基礎実技Ⅲ）

担当教員	長谷川 直子	単位・時間	1単位・45時間（22.5コマ）
教育目標	<p>鍼灸臨床において必要な鍼技術の修練と知識を習得するために、鍼灸師が熟知しておかなければならない感染防止対策、治療過誤の防止を学び、基本的な鍼実技を繰り返し行い、安全でスムーズな刺鍼を体得する。</p> <p>まずは、感染防止対策を学び、基本的な刺鍼手技を体得する。次に、人に対して、各体位で正確で安全に刺鍼できることを目標とする。</p>		
授業内容	<p>主に、以下の項目について学んでいく。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 下腿の触診・取穴と刺入</li> <li>2. 前腕の触診・取穴と刺入</li> <li>3. 腰部の触診・取穴と刺入</li> <li>4. 頸部の触診・取穴と刺入</li> <li>5. 背部の触診・取穴と刺入</li> </ol> <p>※触診・取穴は、特に下肢の骨・筋肉を重点的に行う。</p>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。</li> <li>・期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。</li> <li>・再試験は授業時間外に実施する。</li> <li>・成績評価にあたっては、①試験成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。</li> </ul> <p>・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。</p> <p>「秀」：90～100点  「優」：80～89点  「良」：70～79点  「可」：60～69点  「不可」：59点以下</p>		

教科書	資料配付		
参考書	図解 鍼灸臨床手技マニュアル	著者名	尾崎昭弘 他
		出版社名	医歯薬出版株式会社

回	講義内容	備考
0.5	基礎実技 I の復習	
1.5	上肢・下肢の常用穴への刺鍼（太陽経）	
2.5	上肢・下肢の常用穴への刺鍼（少陽経）	
3.5	上肢・下肢の常用穴への刺鍼（陽明経）	
4.5	上肢・下肢の常用穴への刺鍼（太陰経）	
5.5	上肢・下肢の常用穴への刺鍼（少陰経）	
6.5	上肢・下肢の常用穴への刺鍼（厥陰経）	
7.5	まとめ	
8.5	期末試験練習	
9.5	期末試験①	
10.5	期末試験②	
11.5	背部、肩関節周囲の常用穴の刺鍼①	
12.5	背部、肩関節周囲の常用穴の刺鍼②	
13.5	腰部の常用穴の刺鍼①	
14.5	腰部の常用穴の刺鍼②	
15.5	頸部の常用穴の刺鍼①	
16.5	頸部の常用穴の刺鍼②	
17.5	背部、肩関節周囲の常用穴刺鍼のまとめ	
18.5	腰部の常用穴の刺鍼のまとめ	
19.5	頸部の常用穴の刺鍼	
20.5	期末試験練習	
21.5	期末試験①	
22.5	期末試験②	

## 鍼灸学科・昼間部・1年生（基礎実技Ⅳ）

担当教員	伊藤 才二	単位・時間	1 単位・45 時間（22.5 コマ）
教育目標	灸施術に関する基本的な知識と技術を習得するために、基礎練習を繰り返し行い、安全でスムーズな施術を体得する。 人に対して、各体位で施灸し、最終的に手足の要穴・背部兪穴・募穴等に対して、正確で安全に施灸できることを目標とする。		
授業内容	主に、以下の項目について学んでいく。 1. 各種の灸法を（知熱灸、温筒灸、艾条灸、和紙灸ほか）学ぶ 2. 下肢の要穴への取穴と施灸 3. 体幹部の要穴への取穴と施灸		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業への出席が 3 分の 2 以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。</li> <li>・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。</li> <li>・ 再試験は授業時間外に実施する。</li> <li>・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。</li> <li>・ 成績は以下の 5 段階で評価し、「可」以上を合格とする。                      「秀」：90～100 点 「優」：80～89 点 「良」：70～79 点 「可」：60～69 点                      「不可」：59 点以下</li> </ul>		

教科書	資料配付		
参考書	図解鍼灸療法技術ガイドⅠ・Ⅱ	著者名	矢野 忠
		出版社名	文光堂

回	講義内容	備考
0.5	各種灸法	
1.5	知熱灸	
2.5	知熱灸	
3.5	他人の下肢への施灸（脾経）	
4.5	他人の下肢への施灸（胃経）	
5.5	他人の下肢への施灸（腎経）	
6.5	他人の下肢への施灸（膀胱経）	
7.5	他人の下肢への施灸（肝経）	
8.5	他人の下肢への施灸（胆経）	
9.5	他人の下肢への施灸（総合復習）	
10.5	中間試験①	
11.5	中間試験②	
12.5	背部の施灸①	
13.5	背部の施灸②	
14.5	背部の施灸③	
15.5	腹部の施灸①	
16.5	腹部の施灸②	
17.5	腹部の施灸③	
18.5	総合練習①	
19.5	総合練習②	
20.5	期末試験①	
21.5	期末試験②	
22.5	期末試験③	

## 鍼灸学科・昼間部・1年生（総合領域Ⅰ）

担当教員	鍼灸学科全教員	単位・時間	6単位・180時間（90コマ）
教育目標	この授業の目的は、医学の初学生に対し、1年次に学ぶすべての分野において総合的に復習し、ベースとなる基礎医学の修得を目的とする。また、医療者としての心得や東洋医学的思考の基礎づくりも合わせて行うものとする。		
授業内容	<p>以下の項目に準じて授業をおこなう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合領域Ⅰ①：はりきゅうの歴史、はりきゅう理論Ⅰの復習。</li> <li>・総合領域Ⅰ②：生体観察、あはきの適応判断の復習。</li> <li>・総合領域Ⅰ③：東洋医学概論Ⅰ、経絡経穴概論Ⅰの復習。</li> <li>・総合領域Ⅰ④：解剖学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの復習。</li> <li>・総合領域Ⅰ⑤：東洋医学概論Ⅱ、経絡経穴概論Ⅱの復習。</li> <li>・総合領域Ⅰ⑥：生理学Ⅰの復習および総合試験（全4回）を行う。</li> </ul>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合領域Ⅰ①～⑥それぞれの授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。</li> <li>・再試験は授業時間外に実施する。</li> <li>・成績評価にあたっては、総合領域Ⅰ①～⑥の小テスト、中間試験3回、期末試験1回の平均得点数が60点以上のものを合格とする。</li> <li>・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。  「秀」：90～100点  「優」：80～89点  「良」：70～79点  「可」：60～69点  「不可」：59点以下</li> </ul>		

教科書	資料配付	
参考書	解剖学 生理学 はりきゅう理論 東洋医学概論 経絡経穴概論	各教科で使用した資料等



日付	回	講義内容	日付	回	講義内容	日付	回	講義内容
6/4	0.5	総合領域 I ① (総復習)	9/12	31.5	総合領域 I ③ (総復習)	12/5	62	総合領域 I ① (総復習 0.5 回)
6/11	1.5	総合領域 I ① (総復習)	9/12	32.5	総合領域 I ③ (東概 I)	12/11	63	総合領域 I ⑥ (試験解説)
6/18	2.5	総合領域 I ① (総復習)	9/12	33.5	総合領域 I ④ (解剖 II)	12/18	64	総合領域 I ① (はき歴史)
6/27	3.5	総合領域 I ① (総復習)	9/13	34.5	総合領域 I ① (はき I 試験)	12/25	65	総合領域 I ⑥ (中間試験)
7/4	4.5	総合領域 I ① (総復習)	9/17	35.5	総合領域 I ③ (経穴 I)	1/15	66	総合領域 I ⑥ (試験解説)
7/11	5.5	総合領域 I ② (総復習)	9/18	36.5	総合領域 I ② (生視試験)	1/22	67	総合領域 I ① (はき歴史)
7/18	6.5	総合領域 I ② (総復習)	9/19	37.5	総合領域 I ③ (総復習)	1/23	68	総合領域 I ④ (解剖 III)
7/25	7.5	総合領域 I ② (総復習)	9/19	38.5	総合領域 I ③ (東概 I 試験)	1/30	69	総合領域 I ④ (解剖 III)
7/26	8.5	総合領域 I ① (はき I)	9/19	39.5	総合領域 I ④ (解剖 II 試験)	1/31	70	総合領域 I ⑥ (生理 I)
7/31	9.5	総合領域 I ② (生体観察)	9/20	40.5	総合領域 I ④ (解剖 I)	2/3	71	総合領域 I ⑤ (経穴 II)
8/1	10.5	総合領域 I ② (総復習)	9/24	41.5	総合領域 I ③ (経穴 I 試験)	2/5	72	総合領域 I ⑥ (期末試験)
8/1	11.5	総合領域 I ③ (東概 I)	9/25	42.5	総合領域 I ④ (解剖 I 試験)	2/5	73	総合領域 I ⑤ (東概 II)
8/1	12.5	総合領域 I ④ (解剖 II)	10/3	43.5	総合領域 I ③ (総復習)	2/6	74	総合領域 I ④ (解剖 III)
8/23	13.5	総合領域 I ① (はき I)	10/10	44.5	総合領域 I ③ (総復習)	2/7	75	総合領域 I ⑥ (生理 I)
8/26	14.5	総合領域 I ④ (解剖 I)	10/16	45.5	総合領域 I ② (あはき適応)	2/10	76	総合領域 I ⑤ (経穴 II)
8/27	15.5	総合領域 I ③ (経穴 I)	10/17	46.5	総合領域 I ⑥ (総復習)	2/12	77	総合領域 I ⑥ (試験解説)
8/28	16.5	総合領域 I ② (生体観察)	10/23	47.5	総合領域 I ② (あはき適応)	2/12	78	総合領域 I ⑤ (東概 II)
8/29	17.5	総合領域 I ③ (総復習)	10/24	48.5	総合領域 I ⑤ (総復習)	2/13	79	総合領域 I ④ (解剖 III)
8/29	18.5	総合領域 I ③ (東概 I)	10/29	49.5	総合領域 I ② (あはき適応)	2/14	80	総合領域 I ⑥ (生理 I)
8/29	19.5	総合領域 I ④ (解剖 II)	10/30	50.5	総合領域 I ② (あはき適応)	2/17	81	総合領域 I ⑤ (経穴 II)
8/30	20.5	総合領域 I ① (はき I)	10/31	51.5	総合領域 I ⑤ (総復習)	2/19	82	総合領域 I ① (はき歴史)
9/2	21.5	総合領域 I ④ (解剖 I)	11/5	52.5	総合領域 I ② (あはき試験)	2/19	83	総合領域 I ⑤ (東概 II)
9/3	22.5	総合領域 I ③ (経穴 I)	11/6	53.5	総合領域 I ① (はき歴史)	2/20	84	総合領域 I ④ (解剖 III 試験)
9/4	23.5	総合領域 I ② (生体観察)	11/7	54.5	総合領域 I ⑤ (総復習)	2/21	85	総合領域 I ⑥ (生理 I)
9/5	24.5	総合領域 I ② (総復習)	11/13	55.5	総合領域 I ⑥ (中間試験)	2/26	86	総合領域 I ⑤ (東概 II)
9/5	25.5	総合領域 I ③ (東概 I)	11/14	56.5	総合領域 I ⑤ (総復習)	2/28	87	総合領域 I ⑥ (生理 I 試験)
9/5	26.5	総合領域 I ④ (解剖 II)	11/20	57.5	総合領域 I ⑥ (試験解説)	3/2	88	総合領域 I ⑤ (経穴 II)
9/6	27.5	総合領域 I ① (はき I)	11/21	58.5	総合領域 I ⑤ (総復習)	3/4	89	総合領域 I ⑤ (東概 II 試験)
9/9	28.5	総合領域 I ④ (解剖 I)	11/27	59.5	総合領域 I ① (はき歴史)	3/5	90	総合領域 I ⑤ (経穴 II 試験)
9/10	29.5	総合領域 I ③ (経穴 I)	11/28	60.5	総合領域 I ⑥ (総復習)			
9/11	30.5	総合領域 I ② (生体観察)	12/4	61.5	総合領域 I ⑥ (中間試験)			

## 鍼灸学科・昼間部（2年生）

	授業科目名	担当教員名	時間数	単位数	コマ数
専門基礎分野	解剖学Ⅳ	岸野庸平	30	2	15
	生理学Ⅱ	岩倉淳	30	2	15
	生理学Ⅲ	岩倉淳	30	2	15
	病理学概論	飯塚正	30	1	15
	臨床医学総論Ⅰ	北林亜由美	30	1	15
	臨床医学総論Ⅱ	伊藤才二	30	1	15
	臨床医学各論Ⅰ	富永敦	30	1	15
	臨床医学各論Ⅱ	富永敦	30	1	15
	臨床医学各論Ⅲ	山賀真知子	30	1	15
	衛生学・公衆衛生学Ⅰ	長谷川直子	30	2	15
専門分野	はり・きゅう理論Ⅱ	松永満	30	2	15
	東洋医学概論Ⅲ	松岡晋也	30	2	15
	東洋医学臨床論Ⅰ	山賀真知子	30	2	15
	東洋医学臨床論Ⅱ	松岡晋也	30	2	15
	東洋医学臨床論Ⅲ	山賀真知子	30	2	15
	応用実技Ⅰ	富永敦	45	1	22.5
	応用実技Ⅱ	松岡晋也	45	1	22.5
	応用実技Ⅲ	山賀真知子	45	1	22.5
	応用実技Ⅳ	北林亜由美	45	1	22.5
	総合実技Ⅰ	北林・松岡	45	1	22.5
	臨床実習Ⅰ	北林・松岡	45	1	30
	臨床実習Ⅱ	北林・松岡	45	1	30
	総合領域Ⅱ	鍼灸学科全教員	150	5	75
合計			915	36	472.5

## 鍼灸学科・昼間部・2年生（解剖学Ⅳ）

担当教員	岸野庸平	単位・時間	2単位・30時間（15コマ）
教育目標	<p>運動学は人間の身体運動を科学的に研究する学問あり、運動障害をもつ患者を診て治療を行うためには、人間の運動にかかわる身体の機能と構造についての基本的な知識を備えていなければならない。そこで、1年次に学習した解剖生理学の基礎知識を基に、特に運動系について総合的な理解を深めることを教育目標とする。</p>		
授業内容	<p>以下の内容について講義する</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 運動学総論</li> <li>2. 運動器の構造と機能</li> <li>3. 神経の構造と機能</li> <li>4. 運動感覚・反射・随意運動</li> <li>5. 上肢の運動</li> <li>6. 下肢の運動</li> <li>7. 体幹の運動</li> <li>8. 姿勢・歩行</li> <li>9. 運動発達・運動学習</li> </ol>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。</li> <li>・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。</li> <li>・ 再試験は授業時間外に実施する。</li> <li>・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。</li> <li>・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。</li> <li>・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。  「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点  「不可」：59点以下</li> </ul>		

教科書	配布プリント	著者名	
		出版社名	
参考書		著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	運動学総論	
2	運動器の構造と機能	
3	神経の構造と機能①	
4	神経の構造と機能②	
5	運動の感覚、反射、随意運動	
6	上肢の運動器①	
7	上肢の運動器②	
8	中間試験	
9	下肢の運動器①	
10	下肢の運動器②	
11	体幹の運動器	
12	姿勢・歩行	
13	発達・学習	
14	復習とテスト対策	
15	期末テスト	

## 鍼灸学科・昼間部・2年生（生理学Ⅱ）

担当教員	岩 倉 淳	単位・時間	2 単位・30 時間（15 コマ）
教育目標	<p>1) 生理学すなわち生命（いのち）の理（ことわり）を学ぶことにより，ヒトが生きている仕組みを理解する。</p> <p>2) 生理学の学習を通じて，柔道整復師として科学的根拠に基づいて問題を発見し解決できる能力を身につける。</p>		
授業内容	<p>以下の項目について講義をおこなう。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生理学の基礎（細胞）</li> <li>2. 血液と免疫</li> <li>3. 循環</li> <li>4. 呼吸</li> <li>5. 消化と吸収</li> <li>6. 栄養と代謝</li> <li>7. 体温</li> <li>8. 排泄</li> </ol>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業への出席が 3 分の 2 以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。</li> <li>・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。</li> <li>・ 再試験は授業時間外に実施する。</li> <li>・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。</li> <li>・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。</li> <li>・ 成績は以下の 5 段階で評価し、「可」以上を合格とする。  「秀」：90～100 点 「優」：80～89 点 「良」：70～79 点 「可」：60～69 点  「不可」：59 点以下</li> </ul>		

教科書	テキスト配布	著者名	
		出版社名	
参考書	生理学（改訂第3版）	著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	生理学の基礎（細胞）	※授業ごとに小テストをおこなう
2	血液と免疫	
3	血液と免疫	
4	循環	
5	循環	
6	循環	
7	中間試験	
8	呼吸	
9	消化と吸収	
10	消化と吸収	
11	栄養と代謝	
12	体温	
13	排泄	
14	排泄	
15	期末試験	

## 鍼灸学科・昼間部・2年生（生理学Ⅲ）

担当教員	岩 倉 淳	単位・時間	2 単位・30 時間（15 コマ）
教育目標	<p>1) 生理学すなわち生命（いのち）の理（ことわり）を学ぶことにより，ヒトが生きている仕組みを理解する。</p> <p>2) 生理学の学習を通じて，柔道整復師として科学的根拠に基づいて問題を発見し解決できる能力を身につける。</p>		
授業内容	<p>以下の項目について講義をおこなう。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 内分泌</li> <li>2. 生殖と成長</li> <li>3. 神経</li> <li>4. 骨</li> <li>5. 運動生理</li> <li>6. 感覚生理</li> </ol>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。</li> <li>・期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。</li> <li>・再試験は授業時間外に実施する。</li> <li>・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。</li> <li>・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。</li> <li>・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。  「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点  「不可」：59点以下</li> </ul>		

教科書	テキスト配布	著者名	
		出版社名	
参考書	生理学（改訂第3版）	著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	内分泌	※授業ごとに小テストをおこなう
2	内分泌	
3	内分泌	
4	生殖と成長	
5	中間試験	
6	神経	
7	神経	
8	神経	
9	神経	
10	神経	
11	骨	
12	運動生理	
13	感覚生理	
14	感覚生理	
15	期末試験	



## 鍼灸学科・昼間部・2年生（病理学概論）

担当教員	飯塚 正	単位・時間	1 単位・30 時間（15 コマ）
教育目標	<p>現在の医学は目覚ましい進歩を日々示しており、病理学も古い古典的病理学から脱皮し、新しい医学研究の一翼として、その内容や研究方法を変えつつある。こういった医学研究の進歩の著しい環境にあつて、鍼灸師を目指しているものが、病理学を通して学んだ知識が将来の自己学習の基礎となりうるように、また鍼灸治療術を学ぶ基礎となるように講義をすすめる方針である</p>		
授業内容	<p>病理学の概略として 1. 病理学の意義 2. 疾病の一般 3. 病因 4. 疾病各論についての講義を行うが、病理学を学ぶ上で不可欠な解剖学、組織学、生理学などの知識についてもその概要も交えて総合的に講義を行う。</p>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業への出席が 3 分の 2 以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。</li> <li>・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。</li> <li>・ 再試験は授業時間外に実施する。</li> <li>・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。</li> <li>・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。</li> <li>・ 成績は以下の 5 段階で評価し、「可」以上を合格とする。  「秀」：90～100 点 「優」：80～89 点 「良」：70～79 点 「可」：60～69 点  「不可」：59 点以下</li> </ul>		

教科書	病理学概論、プリント	著者名	東洋療法学校協会
		出版社名	医歯薬出版
参考書		著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	病理学とは・その方法について	
2	疾病の意義と分類・症候の意義と分類・疾病の経過	
3	内因、外因	
4	退行性病変 1	
5	退行性病変 2	
6	循環障害	
7	中間試験	
8	進行性病変	
9	炎症の一般・分類について	
10	免疫異常、自己免疫異常・アレルギー	
11	腫瘍総論 1	
12	腫瘍総論 2	
13	腫瘍各論	
14	先天性異常総論・奇形	
15	期末試験	

## 鍼灸学科・昼間部・2年生（臨床医学総論Ⅰ）

担当教員	北 林 亜 由 美	単位・時間	1 単位・30 時間（15 コマ）
教育目標	<p>現代西洋医学は科学理論を基盤として成立しており、多くの疾患の診断や治療において、力を発揮している。しかしながら、西洋医学的手法をもってしても力の及ばない領域、例えば、原因が明らかでない複雑な発症要因をもつ疾患や精神的な要素が関連する疾患などがある。さらに、西洋医学では、病態を分析し、臓器に焦点を当てがちで全体像を軽視する傾向がある。これに対して東洋医学では、包括的に病態を捉え、個人の自然治癒力を重視し、全人的に診断・治療する姿勢であり、東洋医学は、西洋医学の実態より現われた歪みを糺し、欠点を補うことが出来る特性がある。東洋医学は、もはや西洋医学を補完・代替する立場ではなく、西洋医学と東洋医学は全く同格の立場で、互いに長所と短所を認め合いながら調和し、国民に有益な医療と情報を提供することが肝要なのである。かかる視点に立ち、東洋医学の医療者を志す学生に西洋医学の持つ科学的な観察と思考力を教示する。</p>		
授業内容	<p>「臨床医学総論」の教科書を使用し、西洋医学における臨床医学の全体を総括して講義を行い、臨床医学における各診療科に共通する事項を横断的に解説する。教科書に準拠して講義を行うが、プリントなどを適宜配布して補足解説する。</p>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。</li> <li>・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。</li> <li>・ 再試験は授業時間外に実施する。</li> <li>・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。</li> <li>・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。</li> <li>・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下</li> <li>・ 中間・期末試験を併せて平均点が60点以上の者を合格とする。</li> </ul>		

教科書	臨床医学総論	著者名	奈良信雄 他
		出版社名	医歯薬出版
参考書	配付資料 医療関係専門書	著者名	
		出版社名	

回	講義内容
1	診察の概要・方法
2	生命徴候の診察
3	全身の診察①
4	全身の診察②
5	全身の診察③
6	中間試験
7	局所の診察①
8	局所の診察②
9	局所の診察③
10	局所の診察④
11	神経系の診察
12	運動機能検査①
13	運動機能検査②
14	運動機能検査③
15	期末試験
備考 毎回の授業時に小テストを行う。	

## 鍼灸学科・昼間部・2年生（臨床医学総論Ⅱ）

担当教員	伊藤 才二	単位・時間	1 単位・30 時間（15 コマ）
教育目標	患者を理解し、正しく診断して適切な医療を行ううえで重要な医療面接、身体診察、検査法を学習し、主な症状の診察法や臨床検査法を理解する。		
授業内容	臨床医学総論Ⅰに続き、「臨床医学総論」の教科書を使用し、西洋医学における臨床医学の全体を総括して講義を行い、臨床医学における各診療科に共通する事項を横断的に解説する。教科書に準拠して講義を行うが、プリントなどを適宜配布して補足解説する。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。</li> <li>・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。</li> <li>・ 再試験は授業時間外に実施する。</li> <li>・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。</li> <li>・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。</li> <li>・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下</li> <li>・ 中間・期末試験を併せて平均点が60点以上の者を合格とする。</li> </ul>		

教科書	臨床医学総論	著者名	奈良信雄 他
		出版社名	医歯薬出版
参考書	配付資料 医療関係専門書	著者名	
		出版社名	

回	講義内容
1	臨床機能検査
2	主な症状の診察法①
3	主な症状の診察法②
4	主な症状の診察法③
5	主な症状の診察法④
6	主な症状の診察法⑤
7	主な症状の診察法⑥
8	中間試験
9	主な症状の診察法⑦
10	主な症状の診察法⑧
11	主な症状の診察法⑨
12	主な症状の診察法⑩
13	主な症状の診察法⑪
14	治療・臨床心理
15	期末試験
備考 毎回の授業時に小テストを行う。	

## 鍼灸学科・昼間部・2年生（臨床医学各論Ⅰ）

担当教員	富 永 敦	単位・時間	1 単位・30 時間（15 コマ）
教育目標	<p>わが国の鍼灸治療に関する世論の認識は、西洋医学に比してかなり低い。それなりの理由はいくつかあると考えられるが、今後更に鍼灸療法が国民の期待に沿う方向に発展するためには、西洋医学に関する医学知識が要求される。従って鍼灸師は、西洋医学で扱われる各種疾患について十分に理解しておく必要がある。本講では、各疾患に対する概念、定義、検査法、治療法、予後などの医学的知識を習得し、鍼灸臨床において、正しく病態の把握が出来るようにする。また、鍼灸適応疾患の見極めが出来るようにする。</p>		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ はり師きゅう師国家試験の出題基準を意識し、教科書に準じて講義をする。</li> <li>・ 各疾患の成因、発生機序、病態生理を中心に講義をする。</li> </ul>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。</li> <li>・ 期末試験は授業時間内に実施する。</li> <li>・ 再試験は授業時間外に実施する。</li> <li>・ 成績評価にあたっては、①試験の成績、②出席状況、③授業の受講態度を総合的に勘案した結果を基に判定する。</li> <li>・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。             <ul style="list-style-type: none"> <li>「秀」：90～100点</li> <li>「優」：80～89点</li> <li>「良」：70～79点</li> <li>「可」：60～69点</li> <li>「不可」：59点以下</li> </ul> </li> </ul>		

教科書	配布プリント、臨床医学各論	著者名	奈良信雄 他
		出版社名	医歯薬出版
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『臨床医学総論』 医歯薬出版</li> <li>・『病理学概論』 医歯薬出版</li> <li>・『解剖学』 医歯薬出版</li> <li>・『生理学』 医歯薬出版</li> <li>・『病気がみえる vol.1.4.6』 メディックメディア</li> </ul>		

回	講義内容	備考
1	感染症①	
2	感染症②	
3	感染症③	
4	消化管疾患①	
5	消化管疾患②	
6	消化管疾患③	
7	中間試験	
8	肝・胆・膵疾患①	
9	肝・胆・膵疾患②	
10	肝・胆・膵疾患③	
11	呼吸器疾患①	
12	呼吸器疾患②	
13	呼吸器疾患③	
14	期末試験	
15	期末試験解説	



## 鍼灸学科・昼間部・2年生（臨床医学各論Ⅱ）

担当教員	富 永 敦	単位・時間	1 単位・30 時間（15 コマ）
教育目標	<p>わが国の鍼灸治療に関する世論の認識は、西洋医学に比してかなり低い。それなりの理由はいくつかあると考えられるが、今後更に鍼灸療法が国民の期待に沿う方向に発展するためには、西洋医学に関する医学知識が要求される。従って鍼灸師は、西洋医学で扱われる各種疾患について十分に理解しておく必要がある。本講では、各疾患に対する概念、定義、検査法、治療法、予後などの医学的知識を習得し、鍼灸臨床において、正しく病態の把握が出来るようにする。また、鍼灸適応疾患の見極めが出来るようにする。</p>		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ はり師きゅう師国家試験の出題基準を意識し、教科書に準じて講義をする。</li> <li>・ 各疾患の成因，発生機序，病態生理を中心に講義をする。</li> </ul>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。</li> <li>・ 期末試験は授業時間内に実施する。</li> <li>・ 再試験は授業時間外に実施する。</li> <li>・ 成績評価にあたっては、①試験の成績，②出席状況，③授業の受講態度を総合的に勘案した結果を基に判定する。</li> <li>・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>「秀」：90～100点</li> <li>「優」：80～89点</li> <li>「良」：70～79点</li> <li>「可」：60～69点</li> <li>「不可」：59点以下</li> </ul> </li> </ul>		

教科書	配布プリント、臨床医学各論	著者名	奈良信雄 他
		出版社名	医歯薬出版
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『臨床医学総論』 医歯薬出版</li> <li>・『病理学概論』 医歯薬出版</li> <li>・『解剖学』 医歯薬出版</li> <li>・『生理学』 医歯薬出版</li> <li>・『病気がみえる vol.3.5.6.8』 メディックメディア</li> </ul>		

回	講義内容	備考
1	腎・尿器疾患①	
2	腎・尿器疾患②	
3	腎・尿器疾患③	
4	内分泌疾患①	
5	内分泌疾患②	
6	内分泌疾患③	
7	中間試験	
8	代謝・栄養疾患①	
9	代謝・栄養疾患②	
10	血液・造血器疾患①	
11	血液・造血器疾患②	
12	リウマチ性疾患・膠原病①	
13	リウマチ性疾患・膠原病②	
14	期末試験	
15	期末試験解説	

## 鍼灸学科・昼間部・2年生（臨床医学各論Ⅲ）

担当教員	山賀真知子	単位・時間	1単位・30時間（15コマ）
教育目標	<p>わが国の鍼灸治療に関する世論の認識は、西洋医学に比してかなり低い。それなりの理由はいくつかあると考えられるが、今後更に鍼灸療法が国民の期待に沿う方向に発展するためには、西洋医学に関する医学知識が要求される。従って鍼灸師は、西洋医学で扱われる各種疾患について十分に理解しておく必要がある。本講では、各疾患に対する概念、定義、検査法、治療法、予後などの医学的知識を習得し、鍼灸臨床において、正しく病態の把握が出来るようにする。また、鍼灸適応疾患の見極めが出来るようにする。</p>		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はり師きゅう師国家試験の出題基準を意識し、教科書に準じて講義をする。</li> <li>・各疾患の成因，発生機序，病態生理を中心に講義をする。</li> </ul>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。</li> <li>・期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。</li> <li>・再試験は授業時間外に実施する。</li> <li>・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。</li> <li>・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。</li> <li>・中間試験と期末試験の得点を併せて平均点が60点以上の者を合格とする。</li> <li>・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。  「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点  「不可」：59点以下</li> </ul>		

教科書	臨床医学各論	著者名	奈良信雄 他
		出版社名	医歯薬出版
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配布プリント</li> <li>・『臨床医学総論』 医歯薬出版</li> <li>・『病理学概論』 医歯薬出版</li> <li>・『解剖学』 医歯薬出版</li> <li>・『生理学』 医歯薬出版</li> </ul>		

回	講義内容	備考
1	整形外科疾患①	
2	整形外科疾患②	
3	整形外科疾患③	
4	循環器疾患①	
5	循環器疾患②	
6	循環器疾患③	
7	中間試験	
8	神経疾患①	
9	神経疾患②	
10	神経疾患③	
11	神経疾患④	
12	その他の領域①	
13	その他の領域②	
14	その他の領域③	
15	期末試験	

## 鍼灸学科・昼間部・2年生（衛生学・公衆衛生医学Ⅰ）

担当教員	長谷川 直子	単位・時間	2単位・30時間（15コマ）
教育目標	<p>公衆衛生学とは、疾病予防と健康の保持増進のための科学であり、活動である。 公衆衛生学は社会制度を整備して、集団の健康を増進する幅の広い分野の学問であるので、国家レベルの社会制度の理解から、個人レベルの生活習慣病の予防に至るまでの広い理解が必要となる。</p>		
授業内容	<p>基本的に必要な資料はすべてプリントにて配布する</p> <p>授業は教科書に基づきながら過去の国家試験問題とその類題を理解するために必要な知識や理論について解説していきたい。</p>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。</li> <li>・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。</li> <li>・ 再試験は授業時間外に実施する。</li> <li>・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。</li> <li>・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。</li> <li>・ 中間試験と期末試験の得点を併せて平均点が60点以上の者を合格とする。</li> <li>・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下</li> </ul>		

教科書	衛生学・公衆衛生学	著者名	鈴木 庄亮 他
		出版社名	東洋療法学校協会 編
参考書			

回	講義内容	備考
1	第1・2章 公衆衛生学と健康1	
2	第3章 ライフスタイルと健康	
3	第4章 環境と健康1	
4	第5章 産業保健	
5	第6章 精神保健1	
6	第7章 母子保健	
7	第8章 成人・高齢者保健1	
8	中間試験	
9	第9章 感染症1	
10	第9章 感染症2	
11	第10章 消毒	
12	第11章 疫学	
13	第12章 保健統計	
14	まとめ	
15	期末試験	

## 鍼灸学科・昼間部・2年生（はり・きゅう理論Ⅱ）

担当教員	松 永 満	単位・時間	2 単位・30 時間（15 コマ）
教育目標	鍼灸の治効理論の理解を目的とする。鍼灸は本来、東洋医学として発展してきたが、その治効理論を現代医学的に解明することは、非常に大切である。したがって、「はりきゅう理論Ⅱ」では、「はりきゅう理論Ⅰ」を踏まえて、鍼灸刺激が生体にとどのように作用するかについて、生理学と関連付けながら、治効理論を学んでいく。		
授業内容	「はりきゅう理論Ⅰ」を踏まえ、鍼灸刺激と反射、鍼鎮痛、施術局所の反応、自律神経への影響、生体防御機能への影響、関連学説等を学習し、鍼灸療法の治効理論を理解していく。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。</li> <li>・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。</li> <li>・ 再試験は授業時間外に実施する。</li> <li>・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。</li> <li>・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。</li> <li>・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。                      「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点                      「不可」：59点以下</li> </ul>		

教科書	はりきゅう理論	著者名	東洋療法学校協会 教科書執筆小委員会
		出版社名	医道の日本社
参考書		著者名	
		出版社名	

回	講義内容
1	鍼灸治療の基礎 鍼灸刺激と反射
2	鍼灸治療の基礎 鍼麻酔、鍼鎮痛
3	鍼灸治療の基礎 鍼灸施術の治療的作用
4	鍼灸治療の一般治療理論 自律神経の概要
5	鍼灸治療の一般治療理論 化学伝達物質、受容体
6	鍼灸治療の一般治療理論 鍼の血流に及ぼす影響
7	中間試験
8	解説とまとめ
9	鍼灸治療の一般治療理論 鍼灸刺激とポリモーダル受容器
10	鍼灸治療の一般治療理論 生体防御機構に及ぼす鍼灸刺激の影響Ⅰ
11	鍼灸治療の一般治療理論 生体防御機構に及ぼす鍼灸刺激の影響Ⅱ
12	関連学説 サイバネティックス、ホメオスターシス
13	関連学説 ストレス学説
14	関連学説 レイリー現象、圧発汗反射
15	期末試験



## 鍼灸学科・昼間部・2年生（東洋医学概論Ⅲ）

担当教員	松岡晋也	単位・時間	2単位・30時間（15コマ）
教育目標	<p>伝統医学における鍼灸臨床は、四診法（望・聞・問・切診）を行い、弁証論治に基づく処方と配穴で治療を行う。そこで、伝統鍼灸治療を行う上で必要な、四診法、弁証論治を習得する。</p> <p>先ず、診察に必要な医療面接技法を学び、次に望診、聞診、問診、切診と四診法を習得し、最終的には、四診所見から弁証できることを目標とする。</p>		
授業内容	<p>主に、以下の項目について学んでいく。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療面接技法</li> <li>2. 四診法（望診、聞診、問診、切診）</li> <li>3. 弁証論治（治則、治法、配穴）</li> </ol>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。</li> <li>・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。</li> <li>・ 再試験は授業時間外に実施する。</li> <li>・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。</li> <li>・ 成績評価にあたっては、①中間テストの成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。</li> <li>・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。  「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点  「不可」：59点以下</li> </ul>		

教科書	東洋医学概論	著者名	教科書執筆小委員会 著
		出版社名	医道の日本社
参考書	中医基礎理論	著者名	主編 印会河 他
		出版社名	上海科学技術出版社

回	講義内容	備考
1	望診	
2	聞診	
3	問診①	
4	問診②	
5	問診③	
6	問診④	
7	中間テスト	
8	切診①	
9	切診②	
10	切診③	
11	論治	
12	治療法の概要	
13	三刺、五刺、九刺、十二刺、鍼灸の補瀉法	
14	まとめ	
15	期末テスト	
備考	課題提出や授業中に小テストを実施する。	

## 鍼灸学科・昼間部・2年生（東洋医学臨床論Ⅰ）

担当教員	山賀 真知子	単位・時間	2単位・30時間（15コマ）
教育目標	臨床現場で診察の結果から治療の不適切を判断し、適切な鍼灸治療が行えるよう、その方法を学習する。現代医学的な考え方をもとに、鍼灸治療の対象となる症状について、病態、症状、所見、治療方針を学習し、診察、治療の過程を理解し、鍼灸施術を適切に行う能力と姿勢を育成する。		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 観察と治療、治療計画</li> <li>2. 所見と記録、治療原則</li> <li>3. 主要症候の診断と治療             <ol style="list-style-type: none"> <li>① 病態</li> <li>② 原因</li> <li>③ 症状</li> <li>④ 徒手検査</li> <li>⑤ 治療方針</li> <li>⑥ 鍼灸施術</li> </ol> </li> </ol>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。</li> <li>・期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。</li> <li>・再試験は授業時間外に実施する。</li> <li>・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。</li> <li>・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。</li> <li>・中間試験と期末試験の得点を併せて平均点が60点以上の者を合格とする。</li> <li>・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。              「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点              「不可」：59点以下</li> </ul>		

教科書	
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配布プリント</li> <li>・東洋医学臨床論・はりきゅう編（医道の日本社）</li> <li>・鍼灸療法技術ガイドⅠ・Ⅱ（文光堂）</li> <li>・新版 経絡経穴概論（医道の日本社）</li> </ul>

回	講義内容	備考
1	治療原則と治療計画、腰部の解剖・関節炎	
2	腰下肢痛①	
3	腰下肢痛②	
4	腰下肢痛③	
5	股関節の解剖、股関節痛	
6	膝関節の解剖、膝関節痛	
7	下肢の疾患①	
8	下肢の疾患②、腰下肢痛のまとめ	
9	中間試験	
10	頸部解剖	
11	神経学的診断	
12	頸椎疾患と治療①	
13	頸椎疾患と治療②	
14	頸椎疾患と治療③	
15	期末試験	
備考 課題提出や授業中に小テストを実施することがある。		

## 鍼灸学科・昼間部・2年生（東洋医学臨床論Ⅱ）

担当教員	松岡晋也	単位・時間	2単位・30時間（15コマ）
教育目標	1年次の東洋医学概論Ⅰおよび2年前期の東洋医学概論Ⅱで学習した東洋医学理論を応用し、東洋的臨床に活用するための知識の習得を目的とする。		
授業内容	東洋医学概論で学習した理論を応用しながら、以下の項目について学んでいく。 1. 弁証 2. 論治（治則・治法） 3. 処法（配穴法）		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。</li> <li>・ 期末試験は授業時間内に実施する。</li> <li>・ 再試験は授業時間外に実施する。</li> <li>・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。</li> <li>・ 成績評価にあたっては、中間試験の結果と期末試験の結果、平均得点数が60点以上のものを合格とする。</li> <li>・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下</li> </ul>		

教科書		著者名	
		出版社名	
参考書	針灸学【臨床編】	著者名	日中共同編集
		出版社名	東洋学術出版社

回	講義内容	備考
1	腹痛、悪心・嘔吐、便秘・下痢	
2	咳と痰、呼吸困難、動悸	
3	高血圧、低血圧、胸痛	
4	めまい、耳鳴り、難聴	
5	鼻閉・鼻汁、眼精疲労	
6	排尿障害、ED、月経異常	
7	中間テスト	1～6回
8	頰肩腕通、肩こり、肩関節痛、上肢痛、腰 下肢痛、膝痛	
9	運動麻痺、末梢神経麻痺	
10	頭痛、顔面痛、不眠症	
11	うつ病、冷え症、のぼせ	
12	肥満、やせ、	
13	脱毛症、かゆみ	
14	まとめ	
15	期末テスト	8回～14回

## 鍼灸学科・昼間部・2年生（東洋医学臨床論Ⅲ）

担当教員	山賀 真知子	単位・時間	2単位・30時間（15コマ）
教育目標	臨床現場で診察の結果から治療の不適切を判断し、適切な鍼灸治療が行えるよう、その方法を学習する。現代医学的な考え方をもとに、鍼灸治療の対象となる症状について、病態、症状、所見、治療方針を学習し、診察、治療の過程を理解し、鍼灸施術を適切に行う能力と姿勢を育成する。		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 観察と治療、治療計画</li> <li>2. 所見と記録、治療原則</li> <li>3. 主要症候の診断と治療             <ol style="list-style-type: none"> <li>① 病態</li> <li>② 原因</li> <li>③ 症状</li> <li>④ 徒手検査</li> <li>⑤ 治療方針</li> <li>⑥ 鍼灸施術</li> </ol> </li> </ol>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。</li> <li>・期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。</li> <li>・再試験は授業時間外に実施する。</li> <li>・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。</li> <li>・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。</li> <li>・中間試験と期末試験の得点を併せて平均点が60点以上の者を合格とする。</li> <li>・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。              「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点              「不可」：59点以下</li> </ul>		

教科書	
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配布プリント</li> <li>・東洋医学臨床論・はりきゅう編（医道の日本社）</li> <li>・鍼灸療法技術ガイドⅠ・Ⅱ（文光堂）</li> <li>・新版 経絡経穴概論（医道の日本社）</li> </ul>

回	講義内容	備考
1	肩こり	
2	胸郭出口症候群	
3	肩関節の解剖	
4	肩関節疾患①	
5	肩関節疾患②	
6	上腕二頭筋長頭腱炎・肩部の治療	
7	肘関節の解剖、肘関節疾患	
8	手部の解剖、腱鞘炎	
9	中間試験	
10	絞扼神経障害①	
11	絞扼神経障害②	
12	頭痛	
13	顔面神経麻痺、顎関節症	
14	総まとめ	
15	期末試験	



## 鍼灸学科・昼間部・2年生（応用実技Ⅰ）

担当教員	富 永 敦	単位・時間	1 単位・45 時間（22.5 コマ）
教育目標	<p>実際の臨床において遭遇しやすい腰下肢痛を取り上げ、現代鍼灸の立場から、身体の観察方法を理解し、鍼灸治療の論拠を示し、適切な鍼灸治療法を体得する。まずは、低周波鍼通電療法を学び、次に腰殿部や下肢の解剖を復習し、各部位の理学所見を学び、最終的には医療面接の中で所見を取り、疾患を鑑別し、適切な治療方法を選択し、施術ができることを目標とする。</p> <p>また、3年次での臨床実習をスムーズに開始できるように、患者さんとのコミュニケーションのとり方や配慮についても日頃から取り組み学習する。</p>		
授業内容	<p>主に、以下の項目について学んでいく。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 低周波鍼通電療法（パルス）の基礎</li> <li>2. 腰下肢痛の疾患の鑑別とリスクマネジメント</li> <li>3. 腰下肢の理学検査、神経学的検査</li> <li>4. 腰下肢痛に対する施術（病態把握と治療目的）</li> <li>5. 症例に対するロールプレイ</li> </ol>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。</li> <li>・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。</li> <li>・ 再試験は授業時間外に実施する。</li> <li>・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。</li> <li>・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。  「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点  「不可」：59点以下</li> </ul>		

教科書		著者名	
		出版社名	
参考書	<p>配布プリント</p> <p>病気がみえる vol.11（メディックメディア）</p> <p>鍼灸療法技術ガイドⅠ・Ⅱ（文光堂）</p>		

回	講義内容	備考
1	腰殿部の触診、腰殿部の刺鍼練習①	
2	腰殿部の触診、腰殿部の刺鍼練習②	
3	鍼通電の基礎（前脛骨筋、長腓骨筋）①	
4	鍼通電の基礎（前脛骨筋、長腓骨筋）②	
5	筋・筋膜性腰痛	
6	腰椎椎間板ヘルニア①	
7	腰椎椎間板ヘルニア②	
8	腰椎椎間板ヘルニア③	
9	腰部脊柱管狭窄症	
10	椎間関節性腰痛	
11	変形性腰椎症	
12	梨状筋症候群	
13	変形性膝関節症	
14	腰下肢治療まとめ①	
15	腰下肢治療まとめ②	
16	腰下肢痛ロールプレイ①	
17	腰下肢痛ロールプレイ②	
18	中間試験①	
19	中間試験②	
20	腰下肢痛ロールプレイ③	
21	期末試験①	
22	期末試験②	
22.5	期末試験③	

## 鍼灸学科・昼間部・2年生（応用実技Ⅱ）

担当教員	松岡晋也	単位・時間	1単位・45時間（22.5コマ）
教育目標	<p>臨床において遭遇しやすい症例を学び、診察法・治療法を理解し適切な鍼灸治療法を体得する。</p> <p>最終的には医療面接から患者の状態を判断し、弁証論治し、的確な施術をできることを目標とする。</p>		
授業内容	<p>以下の項目に準じて授業をおこなう。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 診察法</li> <li>2. 弁証</li> <li>3. 配穴</li> <li>4. 症例にたいするロールプレイ</li> </ol>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。</li> <li>・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。</li> <li>・ 再試験は授業時間外に実施する。</li> <li>・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。</li> <li>・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。  「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点  「不可」：59点以下</li> </ul>		

教科書		著者名	
		出版社名	
参考書	配布資料	著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	腹痛	
2	頭痛	
3	ロールプレイ	
4	うつ病	
5	下痢	
6	便秘	
7	ロールプレイ	
8	咳と痰	
9	高血圧	
10	鼻閉・鼻汁	
11	ロールプレイ	
12	めまい	
13	耳鳴り	
14	難聴	
15	ロールプレイ	
16	眼精疲労	
17	月経痛（月経困難症）	
18	ロールプレイ	
19	まとめ	
20	まとめ	
21	期末試験①	
22	期末試験②	
22.5	期末試験③	

## 鍼灸学科・昼間部・2年生（応用実技Ⅲ）

担当教員	山賀 真知子	単位・時間	1 単位・45 時間（22.5 コマ）
教育目標	<p>実際の臨床において遭遇しやすい頸肩部痛を取り上げ、現代鍼灸の立場から、身体を観察方法を理解し、鍼灸治療の論拠を示し、適切な鍼灸治療法を体得する。まずは、低周波鍼通電療法を学び、次に頸肩部や上肢肢の解剖を復習し、各部位の理学所見を学び、最終的には医療面接の中で所見を取り、疾患を鑑別し、適切な治療方法を選択し、施術ができることを目標とする。</p> <p>また、3年次での臨床実習をスムーズに開始できるように、患者さんとのコミュニケーションのとり方や配慮についても日頃から取り組み学習する。</p>		
授業内容	<p>主に、以下の項目について学んでいく。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 低周波鍼通電療法（パルス）の基礎</li> <li>2. 頸肩部痛の疾患の鑑別とリスクマネジメント</li> <li>3. 頸肩部の理学検査、神経学的検査</li> <li>4. 頸肩部痛に対する施術（病態把握と治療目的）</li> <li>5. 症例に対するロールプレイ</li> </ol>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。</li> <li>・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。</li> <li>・ 再試験は授業時間外に実施する。</li> <li>・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。</li> <li>・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。  「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点  「不可」：59点以下</li> </ul>		

教科書		著者名	
		出版社名	
参考書	<p>配布プリント</p> <p>病気がみえる vol.11（メディックメディア）</p> <p>鍼灸療法技術ガイドⅠ・Ⅱ（文光堂）</p>		

回	講義内容
0.5	頸部・肩関節の触診①
1.5	頸部・肩関節の触診②、肩こり、頸部痛（僧帽筋上部線維）①
2.5	肩こり、頸部痛（僧帽筋上部線維）②
3.5	肩関節周囲炎、腱板炎、腱板損傷①
4.5	肩関節周囲炎、腱板炎、腱板損傷②
5.5	肩関節周囲炎、腱板炎、腱板損傷③
6.5	上腕二頭筋長頭腱炎①
7.5	上腕二頭筋長頭腱炎②
8.5	胸郭出口症候群①
9.5	胸郭出口症候群②
10.5	頸椎椎間板ヘルニア①
11.5	頸椎椎間板ヘルニア②
12.5	頸椎椎間板ヘルニア③
13.5	上腕骨外側上顆炎
14.5	頸肩部治療まとめ
15.5	頸肩部治療まとめ
16.5	頸肩部ロールプレイ
17.5	頸肩部ロールプレイ
18.5	中間試験①
19.5	中間試験②
20.5	頸肩部ロールプレイ
21.5	期末試験①
22.5	期末試験②

## 鍼灸学科・昼間部・2年生（応用実技Ⅳ）

担当教員	北 林 亜 由 美	単位・時間	1 単位・45 時間（22.5 コマ）
教育目標	伝統医学における鍼灸臨床は四診法を行い、弁証論治に基づく処方と配穴で治療を行う。応用実技Ⅱで学習した内容に加え、応用実技Ⅳにおいては、四診より弁証論治を導きだし、自分で処方・配穴・治療ができることを目標とする。		
授業内容	以下の項目について学んでいく。 1) 弁証 2) 論治(治則・治法) 3) 処方(配穴法・特効穴)		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業への出席が 3 分の 2 以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。</li> <li>・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。</li> <li>・ 再試験は授業時間外に実施する。</li> <li>・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。</li> <li>・ 成績は以下の 5 段階で評価し、「可」以上を合格とする。                      「秀」：90～100 点 「優」：80～89 点 「良」：70～79 点 「可」：60～69 点                      「不可」：59 点以下</li> </ul>		

教科書	鍼灸療法技術ガイドⅠ・Ⅱ	著者名	矢野 忠
		出版社名	文光堂
参考書		著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
0.5	肝鬱気滞	
1.5	肝火上炎	
2.5	肝血虚	
3.5	肝陽上亢	
4.5	脾気虚	
5.5	脾陽虚	
6.5	脾虚湿盛	
7.5	食滞胃脘	
8.5	胃熱（胃火上炎・胃陰虚）	
9.5	肺気虚	
10.5	風寒犯肺・風熱犯肺	
11.5	痰湿阻肺	
12.5	腎陰虚	
13.5	肝脾不和	
14.5	心肝火旺	
15.5	肝火犯肺	
16.5	肺脾気虚	
17.5	脾腎陽虚	
18.5	まとめ	
19.5	まとめ	
20.5	期末試験①	
21.5	期末試験②	
22.5	期末試験③	



## 鍼灸学科・昼間部・2年生（総合実技Ⅰ）

担当教員	北林亜由美・松岡晋也	単位・時間	1 単位・45 時間（22.5 コマ）
教育目標	<p>総合実技Ⅰ-① 臨床実習Ⅰ・Ⅱで必要となる血圧測定や各部位の理学所見、評価法を学ぶ。</p> <p>総合実技Ⅰ-② ・四診法（望・聞・問・切）の内容を学び理解を深め、正常・健康状態を知り、異常状態時と区別をできるようになり、最終的には東洋医学的診断法を習得する。 ・医療面接時に必要なコミュニケーション能力の向上をはかる。</p>		
授業内容	<p>総合実技Ⅰ-① 1. 血圧測定 2. 評価法（VAS、FS、ROM など） 3. 理学検査、神経学的検査 4. カルテ（理学所見の記入）</p> <p>総合実技Ⅰ-② 1. 望診（顔面診・舌診） 2. 聞診（声診・気味） 3. 問診 4. 切診（脈診・背候診・腹診・経穴診）</p>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合実技Ⅰ-①、②それぞれの授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。</li> <li>・期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。</li> <li>・再試験は授業時間外に実施する。</li> <li>・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。</li> <li>・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下</li> </ul>		

教科書	図解鍼灸療法技術ガイドⅠ・Ⅱ	著者名	矢野 忠
		出版社名	文光堂
参考書	配付資料	著者名	
		出版社名	

回	総合実技 I-①講義内容	回	総合実技 I-②講義内容
1	血圧測定・身体計測	1	東洋医学的診察法①（望診①）
2	問診・カルテ記載	2	東洋医学的診察法②（望診②）
3	感覚検査・反射検査	3	東洋医学的診察法③（問診）
4	関節角度測定	4	東洋医学的診察法④（問診①）
5	徒手筋力検査	5	東洋医学的診察法⑤（問診②）
6	頸部の理学的検査	6	東洋医学的診察法⑥（問診③）
7	肩部の理学的検査	7	東洋医学的診察法⑦（切診①）
8	腰背部の理学的検査	8	東洋医学的診察法⑧（切診②）
9	膝関節の理学的検査	9	東洋医学的診察法⑨（切診③）
10	中間試験①	10	期末試験①
11	中間試験②	11	期末試験②
		11.5	期末試験③
備考			

## 鍼灸学科・昼間部・2年生（臨床実習Ⅰ）

担当教員	北林亜由美・松岡晋也	単位・時間	1 単位・45 時間（30 コマ）
教育目標	既習の「基礎実技」「解剖学」「東洋医学臨床論」「経絡経穴学概論」等の知識と技術を総合し診察・治療の方法を学習する。		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 選穴、鍼・灸の手技</li> <li>2. 鍼灸施術の準備</li> <li>3. 消毒の実際</li> <li>4. 担当教官の指導の元に鍼灸施術の実習を行う。</li> <li>5. 症例に対するロールプレイ</li> </ol>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。</li> <li>・期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。</li> <li>・再試験は授業時間外に実施する。</li> <li>・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。</li> <li>・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下</li> <li>・授業内で確認テストを実施することがある。</li> </ul>		

教科書	図解鍼灸療法技術ガイドⅠ・Ⅱ	著者名	矢野 忠
		出版社名	文光堂
参考書	新版 経絡経穴概論	著者名	東洋療法学校協会
		出版社名	医道の日本社

回	講義内容	備考
1	臨床実践	
2	臨床実践	
3	臨床実践	
4	臨床実践	
5	臨床実践	
6	臨床実践	
7	臨床実践	
8	臨床実践	
9	臨床実践	
10	臨床実践	
11	臨床実践	
12	臨床実践	
13	臨床実践	
14	臨床実践	
15	臨床実践	
16	臨床実践	
17	臨床実践	
18	臨床実践	
19	臨床実践	
20	臨床実践	
21	臨床実践	
22	臨床実践	
23	臨床実践	
24	臨床実践	
25	臨床実践	
26	臨床実践	
27	臨床実践	
28	臨床実践	
29	臨床実践	
30	臨床実践	

## 鍼灸学科・昼間部・2年生（臨床実習Ⅱ）

担当教員	北林亜由美・松岡晋也	単位・時間	1 単位・45 時間（30 コマ）
教育目標	臨床実習Ⅰで学んだことを生かし、ロールプレイや実際に外来患者を取り扱うことにより3年次での臨床実習をスムーズに開始できるように、患者さんとのコミュニケーションのとり方や配慮について学習する。		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 外来患者または模擬患者の問診、触診、各種理学検査の実際を通して病体の現す種々な情報を把握し原因の推定をする。</li> <li>2. カルテの記載</li> </ol>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。</li> <li>・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。</li> <li>・ 再試験は授業時間外に実施する。</li> <li>・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。</li> <li>・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下</li> <li>・ 授業内で確認テストを実施することがある。</li> </ul>		

教科書	図解鍼灸療法技術ガイドⅠ・Ⅱ	著者名	矢野 忠
		出版社名	文光堂
参考書	新版 経絡経穴概論	著者名	東洋療法学校協会
		出版社名	医道の日本社

回	講義内容	備考
1	臨床実践	
2	臨床実践	
3	臨床実践	
4	臨床実践	
5	臨床実践	
6	臨床実践	
7	臨床実践	
8	臨床実践	
9	臨床実践	
10	臨床実践	
11	臨床実践	
12	臨床実践	
13	臨床実践	
14	臨床実践	
15	臨床実践	
16	臨床実践	
17	臨床実践	
18	臨床実践	
19	臨床実践	
20	臨床実践	
21	臨床実践	
22	臨床実践	
23	臨床実践	
24	臨床実践	
25	臨床実践	
26	臨床実践	
27	臨床実践	
28	臨床実践	
29	臨床実践	
30	臨床実践	

## 鍼灸学科・昼間部・2年生（総合領域Ⅱ）

担当教員	鍼灸学科全教員	単位・時間	5単位・150時間（75コマ）
教育目標	この授業の目的は、2年次に学ぶすべての分野において総合的に復習するもので、専門基礎分野では解剖学、生理学を再度復習し、これらをベースに病態生理を把握し、臨床医学総論と各論を習得する。また、専門分野においては東洋医学概論を復習し、東洋医学臨床論を習得するものとする。		
授業内容	<p>以下の項目に準じて授業をおこなう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合領域Ⅱ①：解剖学Ⅳ、臨床医学総論Ⅰ・Ⅱの復習。</li> <li>・総合領域Ⅱ②：臨床医学各論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの復習。</li> <li>・総合領域Ⅱ③：公衆衛生学Ⅰ、はりきゅう理論Ⅱ、東洋医学概論Ⅲの復習。</li> <li>・総合領域Ⅱ④：東洋医学臨床論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの復習。</li> <li>・総合領域Ⅱ⑤：総復習および総合試験（全10回）を行う。</li> </ul>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合領域Ⅱ①～⑤それぞれの授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。</li> <li>・再試験は授業時間外に実施する。</li> <li>・成績評価にあたっては、中間試験、期末試験の平均得点数が60点以上のものを合格とする。</li> <li>・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。  「秀」：90～100点  「優」：80～89点  「良」：70～79点  「可」：60～69点  「不可」：59点以下</li> </ul>		

教科書	資料配付
参考書	各教科で使用した資料等

日付	回	講義内容	日付	回	講義内容	日付	回	講義内容
5/13	1	総合領域Ⅱ⑤(確認試験①)	9/24	26	総合領域Ⅱ①(総論Ⅰ試験)	1/20	51	総合領域Ⅱ⑤(総復習)
5/31	2	総合領域Ⅱ④(東臨Ⅰ)	9/25	27	総合領域Ⅱ③(公衆衛生試験)	1/21	52	総合領域Ⅱ④(東臨Ⅲ)
6/7	3	総合領域Ⅱ④(東臨Ⅰ)	9/25	28	総合領域Ⅱ⑤(確認試験⑤)	1/23	53	総合領域Ⅱ②(各論Ⅱ)
6/7	4	総合領域Ⅱ④(東臨Ⅰ)	10/4	29	総合領域Ⅱ②(各論Ⅲ)	1/27	54	総合領域Ⅱ⑤(総復習)
6/10	5	総合領域Ⅱ⑤(確認試験②)	10/7	30	総合領域Ⅱ③(東概Ⅲ)	1/28	55	総合領域Ⅱ④(東臨Ⅲ試験)
6/14	6	総合領域Ⅱ④(東臨Ⅰ)	10/11	31	総合領域Ⅱ②(各論Ⅲ試験)	1/29	56	総合領域Ⅱ⑤(期末試験)
6/14	7	総合領域Ⅱ④(東臨Ⅰ試験)	10/21	32	総合領域Ⅱ③(東概Ⅲ)	1/30	57	総合領域Ⅱ②(各論Ⅱ)
7/8	8	総合領域Ⅱ⑤(確認試験③)	10/28	33	総合領域Ⅱ③(東概Ⅲ)	2/3	58	総合領域Ⅱ①(解剖Ⅳ)
8/1	9	総合領域Ⅱ②(各論Ⅰ)	11/11	34	総合領域Ⅱ⑤(確認試験⑥)	2/4	59	総合領域Ⅱ①(総論Ⅱ)
8/26	10	総合領域Ⅱ③(公衆衛生)	11/14	35	総合領域Ⅱ③(はき理Ⅱ)	2/6	60	総合領域Ⅱ②(各論Ⅱ)
8/26	11	総合領域Ⅱ⑤(確認試験④)	11/18	36	総合領域Ⅱ③(東概Ⅲ)	2/7	61	総合領域Ⅱ④(東臨Ⅱ)
8/27	12	総合領域Ⅱ①(総論Ⅰ)	11/21	37	総合領域Ⅱ③(はき理Ⅱ)	2/10	62	総合領域Ⅱ①(解剖Ⅳ)
8/29	13	総合領域Ⅱ②(各論Ⅰ)	11/25	38	総合領域Ⅱ③(東概Ⅲ試験)	2/12	63	総合領域Ⅱ④(東臨Ⅱ)
8/30	14	総合領域Ⅱ②(各論Ⅲ)	11/28	39	総合領域Ⅱ③(はき理Ⅱ)	2/13	64	総合領域Ⅱ②(各論Ⅱ)
9/2	15	総合領域Ⅱ③(公衆衛生)	12/2	40	総合領域Ⅱ⑤(確認試験⑦)	2/17	65	総合領域Ⅱ①(解剖Ⅳ)
9/3	16	総合領域Ⅱ①(総論Ⅰ)	12/5	41	総合領域Ⅱ③(はき理Ⅱ)	2/18	66	総合領域Ⅱ①(総論Ⅱ)
9/5	17	総合領域Ⅱ②(各論Ⅰ)	12/9	42	総合領域Ⅱ⑤(総復習)	2/19	67	総合領域Ⅱ④(東臨Ⅱ)
9/6	18	総合領域Ⅱ②(各論Ⅲ)	12/12	43	総合領域Ⅱ③(はき理Ⅱ試験)	2/20	68	総合領域Ⅱ②(各論Ⅱ試験)
9/9	19	総合領域Ⅱ③(公衆衛生)	12/16	44	総合領域Ⅱ⑤(総復習)	2/25	69	総合領域Ⅱ①(総論Ⅱ)
9/10	20	総合領域Ⅱ①(総論Ⅰ)	12/20	45	総合領域Ⅱ④(東臨Ⅲ)	2/26	70	総合領域Ⅱ④(東臨Ⅱ)
9/12	21	総合領域Ⅱ②(各論Ⅰ)	12/23	46	総合領域Ⅱ⑤(総復習)	2/27	71	総合領域Ⅱ①(総論Ⅱ)
9/13	22	総合領域Ⅱ②(各論Ⅲ)	12/24	47	総合領域Ⅱ⑤(確認試験⑧)	3/2	72	総合領域Ⅱ①(解剖Ⅳ)
9/17	23	総合領域Ⅱ①(総論Ⅰ)	1/7	48	総合領域Ⅱ④(東臨Ⅲ)	3/3	73	総合領域Ⅱ①(総論Ⅱ試験)
9/19	24	総合領域Ⅱ②(各論Ⅰ試験)	1/8	49	総合領域Ⅱ⑤(確認試験⑨)	3/4	74	総合領域Ⅱ④(東臨Ⅱ試験)
9/20	25	総合領域Ⅱ③(公衆衛生)	1/14	50	総合領域Ⅱ④(東臨Ⅲ)	3/5	75	総合領域Ⅱ①(解剖Ⅳ試験)



## 鍼灸学科・昼間部（3年生）

	授業科目名	担当教員名	単位数	コマ数
基礎分野	経 営 学	佐藤 孝一	1	10
専門基礎分野	リハビリテーション医学	松 永 満	2	20
	公衆衛生学	山口 澄江	2	20
	関係法規	長谷川 直子	1	10
	統合専門基礎医学	飯塚 正 伊藤 才二 富 永 敦	7	70
専門分野	東洋医学臨床論Ⅲ	松 永 満	2	20
	東洋医学臨床論Ⅳ	松 岡 晋也	2	20
	社会はりきゅう理論	松 永 満	2	20
	応用実習Ⅲ	北林 亜由美 山賀 真知子 富 永 敦	3	60
	応用実習Ⅳ	長谷川 直子	1	20
	臨床実習	鍼灸学科全教員	2	60
	統合はりきゅう学Ⅰ	長谷川 直子	3	30
	統合はりきゅう学Ⅱ	岸野 庸平	4	40
合 計			32	400

## 鍼灸学科・昼間部・3年生（経営学）

担当教員	佐藤 孝一	単位・時間	1単位・15時間（10コマ）
教育目標	経営理論、ケーススタディを通して、より実践的な経営基礎知識を習得してもらう。		
授業内容	<p>(1) ヒト・モノ・カネがなぜ経営の三要素と言われるのか、様々な実例を交え講義する。</p> <p>(2) 経営の方向を左右するマーケティングやビジネスプランについて講義する。</p> <p>(3) 企業経営者をゲストスピーカーに招き、企業経営に必要な資質・条件等を学んでもらう。</p>		
成績評価	<p>成績評価にあたっては、</p> <p>① レポート②小テストの成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。</p> <p>・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。</p> <p>「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点</p> <p>「不可」：59点以下</p>		

教科書	特になし	著者名	
		出版社名	
参考書	特になし	著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	経営学概論Ⅰ	
2	経営学概論Ⅱ	
3	ファイナンスの基礎知識	
4	マーケティングの基礎知識Ⅰ	
5	マーケティングの基礎知識Ⅱ	
6	企業ケーススタディⅠ	
7	企業ケーススタディⅡ	
8	開業に必要な基礎知識	
9	ビジネスプラン演習	
10	まとめ	

## 鍼灸学科・昼間部・3年生（衛生学・公衆衛生学）

担当教員	山口 澄江	単位・時間	2単位・30時間（20コマ）
教育目標	<p>公衆衛生学とは、人間の生存に影響を及ぼすさまざまな関係要因をふまえ、健康の保持・増進を目的とする学問である。</p> <p>公衆衛生学は社会制度を整備して、集団の健康を増進する幅の広い分野の学問であるので、国家レベルの社会制度の理解から、個人レベルの生活習慣病の予防に至るまでの広い理解が必要となる。</p>		
授業内容	<p>授業は過去の国家試験問題とその類題を理解するために必要な知識や理論について解説していきたい。</p>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。</li> <li>・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。</li> <li>・ 再試験は授業時間外に実施する。</li> <li>・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。</li> <li>・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。</li> <li>・ 授業中に行われるすべての試験において、6割以上の得点を必要とする。</li> <li>・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。  「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点  「不可」：59点以下</li> </ul>		

教科書	プリント配布	著者名	
		出版社名	
参考書	シンプル衛生公衆衛生学	著者名	鈴木庄亮他
		出版社名	南江堂

回	講義内容	備 考
1	公衆衛生学と健康 1	
2	公衆衛生学と健康 2	
3	ライフスタイルと健康	
4	環境と健康 1	
5	環境と健康 2	
6	環境と健康 3	
7	産業保健	
8	精神保健 1	
9	精神保健 2	
10	中間試験	
11	母子保健	
12	成人・高齢者保健 1	
13	成人・高齢者保健 2	
14	感染症 1	
15	感染症 2	
16	感染症 3	
17	消毒	
18	疫学	
19	保健統計	
20	期末試験	60点未満の者は再試験を行う。

## 鍼灸学科・昼間部・3年生（リハビリテーション医学）

担当教員	松 永 満	単位・時間	2 単位・30 時間（20 コマ）
教育目標	<p>「リハビリ」という言葉は、スポーツ選手の運動機能回復や脳卒中、心疾患などにより社会復帰・参加をなしとげる過程でよく耳にするが、これらはリハビリテーションの概念の一つであり、真の意味は『人間らしく生きる権利の回復』である。リハビリテーションの医療的なサポートはその中核をなし、医療に携わるものがリハビリテーション医学・医療について正しい知識をもつことは大切である。</p> <p>本授業では、鍼灸師に必要なリハビリテーション医学の知識を習得することを目標とする。</p>		
授業内容	<p>主に、以下の項目について学んでいく。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. リハビリテーション総説</li> <li>2. 各疾患のリハビリテーション</li> <li>3. 運動のしくみ</li> </ol>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業への出席が 3 分の 2 以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。</li> <li>・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。</li> <li>・ 再試験は授業時間外に実施する。</li> <li>・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。</li> <li>・ 成績は以下の 5 段階で評価し、「可」以上を合格とする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>「秀」：90～100 点</li> <li>「優」：80～89 点</li> <li>「良」：70～79 点</li> <li>「可」：60～69 点</li> <li>「不可」：59 点以下</li> </ul> </li> </ul>		

教科書	リハビリテーション ビジュアルブック	著者名	落合慈之、稲川利光
		出版社名	学研メディカル秀潤社
参考書	配付資料	著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	リハビリテーションと障害	
2	リハビリテーション医学と医療	
3	地域リハビリテーション、障害の評価	
4	障害の評価、廃用症候群	
5	運動麻痺の評価、高次機能障害、認知症	
6	理学療法、作業療法	
7	装具療法と義肢	
8	車椅子、杖、歩行器	
9	中間試験	
10	解説とまとめ	
11	脳卒中	
12	脳卒中、脊髄損傷	
13	脊髄損傷	
14	脳性麻痺	
15	切断	
16	高齢者の骨折、関節リウマチ	
17	呼吸器疾患、心疾患、パーキンソン病	
18	歩行、重心線、運動学の基礎、身体各部の機能	
19	期末試験	
20	解説とまとめ	

## 鍼灸学科・昼間部・3年生（関係法規）

担当教員	長谷川 直子	単位・時間	1単位・15時間（10コマ）
教育目標	<p>はり師、きゅう師として業務に従事するうえで、「あん摩マッサージ指圧師はり師、きゅう師等に関する法律」と、その業務と、医療従事者として必要な医事福祉関係法規を理解する。</p>		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法制度の沿革を通して鍼灸の現況を知る。</li> <li>・国家試験も含め免許取得とそれ以降の業に移るまでの法令を順序に従って学習する。</li> <li>・医療従事者としての鍼灸師の法的位置づけを学ぶ。</li> <li>・医療制度の概要から医療の社会性を学ぶ。</li> <li>・過去の国家試験の出題傾向を整理し、講義内容に沿う練習問題を毎回授業のなかで行う。</li> </ul>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。</li> <li>・期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。</li> <li>・再試験は授業時間外に実施する。</li> <li>・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。</li> <li>・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。</li> <li>・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。  「秀」:90～100点      「優」:80～89点      「良」:70～79点  「可」:60～69点      「不可」:59点以下</li> </ul>		

教科書	関係法規	著者名	東洋療法学校協会・医歯薬出版編
		出版社名	医歯薬出版



回	講義内容	備考
1	オリエンテーション、法制度の沿革	
2	免許と試験、業務範囲	
3	施術所に関する規則、広告の制限	
4	罰則、前半のまとめと復習演習	
5	医療法、確認問題	
6	医療従事者、薬事法	
7	保健・予防衛生、社会福祉関係法規	
8	社会保険関係法規、関連医事用語の解説	
9	期末試験	
10	試験の解説、国試対策問題の演習	

## 鍼灸学科・昼間部・3年生（統合専門基礎医学）

担当教員	飯塚 正・伊藤 才二・富永 敦
単位・時間	7単位・105時間（70コマ）
教育目標	2年生終了時までの間に学習した、解剖学・生理学・病理学等の基礎医学について、これらを統合した形で再度学習し、基礎医学に関する知識を確かなものにすることを教育目標とする。
授業内容	<p>以下の項目に準じて授業をおこなう。</p> <p>統合専門基礎医学①病理学のまとめ・・・・・・・・（10コマ、担当：飯塚 正）          統合専門基礎医学②解剖生理学のまとめ・・・・・・・・（40コマ、担当：伊藤 才二）          統合専門基礎医学③臨床医学各論のまとめ・・・・・・・・（20コマ、担当：富永 敦）</p> <p>なお、授業の途中で、適宜、中間試験を実施することがある。</p>
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・統合専門基礎医学①～③それぞれの出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。</li> <li>・期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。</li> <li>・再試験は授業時間外に実施する。</li> <li>・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。</li> <li>・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。</li> <li>・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。             <ul style="list-style-type: none"> <li>「秀」：90～100点</li> <li>「優」：80～89点</li> <li>「良」：70～79点</li> <li>「可」：60～69点</li> <li>「不可」：59点以下</li> </ul> </li> </ul>

教科書	資料配布	著者名	
		出版社名	
参考書		著者名	
		出版社名	

日付	回	講義内容	日付	回	講義内容	日付	回	講義内容
4/5	1	統基②：人体の構成（上皮組織）	6/7	25	統基②：消化器系	8/26	49	統基②：神経系（脳幹）
4/5	2	統基②：人体の構成（血液）	6/7	26	統基②：消化器系	8/30	50	統基③：期末試験
4/5	3	統基③：内分泌疾患①	6/7	27	統基③：臨床医学各論・総論③	9/2	51	統基②：神経系（脳神経ほか）
4/9	4	統基①：病因、退行性病変1	6/11	28	統基①：腫瘍、先天性疾患2	9/6	52	統基②：神経系（自律神経）
4/12	5	統基②：循環器系（心臓①）	6/14	29	統基②：消化器系	9/6	53	統基②：運動器系（総論）
4/12	6	統基②：循環器系（心臓②）	6/14	30	統基②：栄養と代謝	9/6	54	統基③：期末試験解説①
4/12	7	統基③：内分泌疾患②	6/14	31	統基③：臨床医学各論・総論④	9/9	55	統基②：中間試験②
4/16	8	統基①：循環障害、進行性病変1	6/18	32	統基①：まとめ試験2（終）	9/13	56	統基②：中間試験②解説
4/19	9	統基③：代謝・栄養疾患①	6/21	33	統基③：臨床医学各論・総論⑤	9/13	57	統基②：運動器系（頭部）
4/23	10	統基①：炎症、免疫1	6/28	34	統基③：臨床医学各論・総論⑥	9/13	58	統基③：期末試験解説②（終）
4/26	11	統基③：代謝・栄養疾患②	7/1	35	統基②：中間試験①	9/20	59	統基②：運動器系（頭部、胸部）
5/7	12	統基①：腫瘍、先天性疾患1	7/5	36	統基②：中間試験①解説	9/25	60	統基②：運動器系（腰背部ほか）
5/10	13	統基②：循環器系（動脈）	7/5	37	統基②：泌尿器系	10/7	61	統基②：運動器系（上肢）
5/10	14	統基②：循環器系（静脈ほか）	7/5	38	統基③：臨床医学各論・総論⑦	10/21	62	統基②：運動器系（下肢）
5/10	15	統基③：中間試験	7/8	39	統基②：泌尿器系	10/28	63	統基②：感覚器系（皮膚）
5/14	16	統基①：まとめ試験1	7/12	40	統基③：臨床医学各論・総論⑧	11/11	64	統基②：感覚器系（特殊感覚）
5/17	17	統基②：呼吸器系	7/19	41	統基③：臨床医学各論・総論⑨	11/18	65	統基②：生体の防御
5/17	18	統基②：呼吸器系	7/22	42	統基②：内分泌系	11/25	66	統基②：ホメオスタシス
5/17	19	統基③：中間試験の解説	7/26	43	統基②：内分泌系	12/2	67	統基②：神経系の復習
5/21	20	統基①：病因、退行性病変2	7/26	44	統基②：生殖・成長と老化	12/9	68	統基②：運動器系の復習
5/24	21	統基③：臨床医学各論・総論①	7/26	45	統基③：臨床医学各論・総論⑩	12/16	69	統基②：期末試験
5/28	22	統基①：循環障害、進行性病変2	7/29	46	統基②：神経系（基礎）	12/23	70	統基②：期末試験の解説とまとめ
5/31	23	統基③：臨床医学各論・総論②	7/30	47	統基②：神経系（大脳）			
6/4	24	統基①：炎症、免疫2	8/23	48	統基③：臨床医学各論・総論⑪			

## 鍼灸学科・昼間部・3年生（東洋医学臨床論Ⅲ）

担当教員	松 永 満	単位・時間	2 単位・30 時間（20 コマ）
教育目標	<p>現代医学的な考えとは、現代医学の知識・技術などを鍼灸の診察、治療に応用しようとする考え方である。現代医学的な考え方をもとに鍼灸治療の対象となる疾患について、病態、症状、所見、治療方針を学習し、必要な診察法の過程に主要な徒手検査法を学び、適切な鍼灸治療を行うための知識を習得させることを教育目標とする。</p>		
授業内容	<p>主に、以下の項目について学んでいく。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 治療と診断</li> <li>2. 症候に対する東西両医学からのアプローチ</li> <li>3. 疾患に対する東西両医学からのアプローチ</li> <li>4. 高齢者に対する鍼灸施術</li> <li>5. スポーツ領域における鍼灸施術</li> </ol>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業への出席が 3 分の 2 以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。</li> <li>・ 中間試験・期末試験は授業時間内に実施する。</li> <li>・ 再試験・追試験は授業時間外に実施する。</li> <li>・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。</li> <li>・ 成績は以下の 5 段階で評価し、「可」以上を合格とする。  「秀」：90～100 点 「優」：80～89 点 「良」：70～79 点 「可」：60～69 点  「不可」：59 点以下</li> </ul>		

教科書	東洋医学臨床論(はりきゅう編)	著者名	東洋療法学校協会
		出版社名	医道の日本社
参考書		著者名	
		出版社名	

回	講義内容(西洋)	備考
1	神経・筋疾患①	
2	神経・筋疾患②	
3	神経・筋疾患③	
4	運動器疾患①	
5	運動器疾患②	
6	運動器疾患③	
7	スポーツ障害①	
8	スポーツ障害②	
9	中間試験	
10	解説とまとめ	
11	呼吸器疾患	
12	循環器疾患	
13	消化器疾患	
14	腎・泌尿器疾患	
15	婦人科疾患	
16	耳鼻咽喉疾患	
17	老年医学	
18	診断と治療、その他の疾患、検査法	
19	期末試験	
20	解説とまとめ	

## 鍼灸学科・昼間部・3年生（東洋医学臨床論Ⅳ）

担当教員	松岡晋也	単位・時間	2単位・30時間（20コマ）
教育目標	（東洋）国家試験における東洋医学概論・東洋医学臨床論の総復習並びに、それらの問題を解答する過程で東洋医学の知識を多用する問題の得点率を引き上げることを目的とする。		
授業内容	（東洋）東洋医学理論の基礎である陰陽・五行・精気血津液の諸学説及び蔵象・病因論・病理病証・診断論・治療論並びに臨床の複合問題を総復習。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。</li> <li>・期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。</li> <li>・再試験は授業時間外に実施する。</li> <li>・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。</li> <li>・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。</li> <li>・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。                      「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点                      「不可」：59点以下</li> </ul>		

教科書	東洋医学臨床論(はりきゅう編)	著者名	東洋療法学校協会
		出版社名	医道の日本社
教科書	東洋医学概論	著者名	教科書執筆小委員会
		出版社名	医道の日本社

回	講義内容	備考
1	生体物質（精・気・血・津液）	
2	蔵象①	
3	蔵象②	
4	蔵象③	
5	病因（外因・内因・不内外因）	
6	陰陽・五行学説	
7	四診	
8	四診・弁証論治	
9	弁証論治	
10	中間テスト	1～9回
11	東洋医学臨床論①	各疾患の弁証論治
12	東洋医学臨床論②	各疾患の弁証論治
13	東洋医学臨床論③	各疾患の弁証論治
14	東洋医学臨床論④	各疾患の弁証論治
15	東洋医学臨床論⑤	各疾患の弁証論治
16	東洋医学臨床論⑥	各疾患の弁証論治
17	東洋医学臨床論⑦	各疾患の弁証論治
18	東洋医学臨床論⑧	各疾患の弁証論治
19	まとめ	
20	期末テスト	11～18回

## 鍼灸学科・昼間部・3年生（社会はりきゅう理論）

担当教員	松 永 満	単位・時間	2 単位・30 時間（20 コマ）
教育目標	はりきゅう理論Ⅰ・はりきゅう理論Ⅱを踏まえ、鍼灸臨床での用具、手技、作用機序及び人体の生理学等について更なる理解力と応用力を身につける。		
授業内容	過去に出題された「はり理論」と「きゅう理論」の国家試験問題等を活用し、より一層の理解を計る。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。</li> <li>・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。</li> <li>・ 再試験は授業時間外に実施する。</li> <li>・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。</li> <li>・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。</li> <li>・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。  「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点  「不可」：59点以下</li> </ul>		

教科書	はりきゅう理論	著者名	東洋療法学校協会 教科書執筆小委員会
		出版社名	医道の日本社
参考書		著者名	
		出版社名	



回	講義内容	備考
1	オリエンテーション	
2	鍼の基礎知識	
3	刺鍼の方式と術式	
4	特殊鍼法	
5	灸の基礎知識	
6	灸術の種類	
7	鍼灸の臨床応用	
8	リスク管理	
9	リスク管理	
10	中間試験	
11	解答とまとめ	
12	鍼灸治効の基礎	
13	鍼灸治効の基礎	
14	鍼灸療法の一般治効理論	
15	鍼灸療法の一般治効理論	
16	鍼灸療法の一般治効理論	
17	関連学説	
18	関連学説	
19	期末試験	
20	解説とまとめ	

## 鍼灸学科・昼間部・3年生（応用実習Ⅲ）

担当教員	北林亜由美・山賀真知子・富永敦	単位・時間	3単位・90時間（60コマ）
教育目標	<p>実際の臨床において、腰痛、頸肩部痛に次いで遭遇しやすい症状を取り上げて、現代鍼灸の立場から、身体の観察方法を理解し、鍼灸治療の論拠を示し、各疾患の現代医学的治療を理解し、適切な鍼灸治療法を体得する。</p> <p>まずは、月経異常や不妊症など女性特有の症状、高齢者に多い疾患の後遺症、筋力低下による歩行速度低下など老年特有の症状、さらにスポーツ傷害・障害などのスポーツ特有の症状を学び、各疾患の鑑別に必要な理学所見を復習し、最終的には、模擬患者に対し医療面接の中で所見を取り、疾患を鑑別し、適切な治療方法を選択し、施術ができることを目標とする。</p> <p>また、常に治療前後での主訴の変化（指標の変化）を意識して行う。鍼灸初療者、高齢者に対する対応ができるようにする。</p>		
授業内容	<p>主に、以下の項目について学んでいく。</p> <p>応用実習Ⅲ①：美容・レディース鍼灸          応用実習Ⅲ②：老年鍼灸          応用実習Ⅲ③：スポーツ鍼灸</p>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 応用実習Ⅲ①～③それぞれの授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。</li> <li>・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。</li> <li>・ 再試験は授業時間外に実施する。</li> <li>・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。</li> <li>・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。              「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点              「不可」：59点以下</li> </ul>		

教科書		著者名	
		出版社名	

回	講義内容	回	講義内容
①01	ROM、皮膚分節、知覚検査	②11	パーキンソン病
①02	深部腱反射、病的反射、MMT	②12	ロールプレイ③
①03	TOS の概要、検査、TOS の治療	②13	帯状疱疹
①04	手根管、肘部管、Guyon 管症候群	②14	認知症
①05	思春期のマイナートラブル	②15	ロールプレイ④
①06	思春期のマイナートラブル	②16	中間試験①
①07	性成熟期のマイナートラブル	②17	治療のまとめ①
①08	性成熟期のマイナートラブル	②18	治療のまとめ②
①09	妊娠期のマイナートラブル	②19	中間試験②
①10	妊娠期のマイナートラブル	②20	中間試験③
①11	更年期・老年期のマイナートラブル	③01	野球肩の診察
①12	更年期・老年期のマイナートラブル	③02	上腕骨外側上顆炎の診察
①13	神経痛	③03	上腕骨内側上顆炎の診察
①14	顎関節症、眼精疲労	③04	肉離れ（大腿後面）の診察
①15	美容鍼灸	③05	椎間関節性腰痛の診察
①16	美容鍼灸	③06	筋筋膜性腰痛の診察
①17	治療のまとめ①	③07	頸部椎間板ヘルニアの診察
①18	治療のまとめ②	③08	腰部椎間板ヘルニアの診察
①19	中間試験①	③09	膝内側側副靭帯損傷の診察
①20	中間試験②	③10	膝外側側副靭帯損傷の診察
②01	肩こり、頭痛	③11	膝十字靭帯損傷の診察
②02	めまい、耳鳴、難聴	③12	ジャンパー膝の診察
②03	脳卒中	③13	ランナー膝の診察
②04	ロールプレイ①	③14	鷲足炎の診察
②05	運動器症状①	③15	シンスプリントの診察
②06	排尿障害	③16	アキレス腱炎の診察
②07	便秘と下痢	③17	足底筋膜炎の診察
②08	ロールプレイ②	③18	足関節外側靭帯損傷の診察
②09	運動器症状②	③19	期末試験①
②10	うつ	③20	期末試験②

## 鍼灸学科・昼間部・3年生（応用実習Ⅳ）

担当教員	長谷川直子	単位・時間	1単位・30時間（20コマ）
教育目標	伝統医学における鍼灸臨床に必要な、四診法を行い、弁証論治に基づき、自分なりの処方と配穴で治療を行い、治療前後での主訴の変化（指標の変化）を確認する。まず、四診法から弁証論治を行い、次に要穴や五俞穴の特性、経絡・経筋等を理解し、最終的には、伝統医学的に病態を把握し、基礎理論に基づき配穴治療できることを目標とする。		
授業内容	主に、以下の項目について学んでいく。 1. 四診法と指標の変化 2. 経絡流注 3. 難経六十八難 4. 難経六十九難 5. 経筋治療（経筋の流注、榮穴と俞穴の特性） 6. 変動経絡検索法（井穴、経穴、下合穴、絡穴の特性） 7. 奇経治療（流注と八総穴） 8. その他の治療法		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。</li> <li>・期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。</li> <li>・再試験は授業時間外に実施する。</li> <li>・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。</li> <li>・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。                      「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点                      「不可」：59点以下</li> </ul>		

教科書	配付資料	著者名	
		出版社名	
参考書		著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	脊柱の取り方	脊柱の取り方
2	背部兪穴の左右の反応（硬さ）の違い（虚実の反応）	背候診
3	原穴診と東洋医学的問診票	原穴診
4	四診法の流れ、経絡テスト	
5	四診法による診断、要穴を用いた治療①	
6	四診法による診断、要穴を用いた治療②	
7	四診法による診断、要穴を用いた治療③	
8	中間試験の練習	
9	中間試験	
10	中間試験	
11	東洋医学的診断・治療①	
12	東洋医学的診断・治療②	
13	東洋医学的診断・治療③	
14	東洋医学的診断・治療④	
15	東洋医学的診断・治療⑤	
16	東洋医学的診断・治療⑥	
17	東洋医学的診断・治療⑦	
18	東洋医学的診断・治療⑧	
19	期末試験	
20	期末試験	

## 鍼灸学科・昼間部・3年生（臨床実習）

担当教員	松 永 満	単位・時間	2 単位・90 時間（60 コマ）
教育目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 既習の「基礎実習」「臨床医学各論」「東洋医学臨床論」等の知識と技術を総合して実際に外来患者を取り扱うことにより、診察・治療の方法を学習する。</li> <li>2. 施術におけるリスク管理の徹底を図る。</li> <li>3. 施術計画と施術の実際及び施術後の評価と問題のある症例に対する再検討。</li> <li>4. 日常遭遇することの多い疾患の診察・施術パターンを身につけさせる。</li> </ol>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 患者の診察と施術の実践               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 外来患者または模擬患者の問診、触診、各種理学検査の実際を通して病体の現す種々な情報を把握できるようにする。</li> <li>(2) 原因の推定と予後の判定ができるようにする。</li> <li>(3) 鍼灸施術の計画（選穴、鍼・灸の手技）</li> <li>(4) 鍼灸施術の準備</li> <li>(5) 消毒の実際</li> <li>(6) 担当教官の指導の元に鍼灸施術の実習を行う。</li> <li>(7) カルテの記載</li> <li>(8) 臨床記録の記入</li> </ol> </li> <li>2. 日常多く遭遇する症例（頸肩腕症候群、五十肩、腰痛症、坐骨神経痛、膝関節のOA、不定愁訴症候群、更年期障害等）については、治療パターンが定着する。</li> </ol>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ、下記の事項を基に総合的に評価する。               <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 臨床に対する意欲、熱心さ、積極性</li> <li>2. 患者に対する接遇態度</li> <li>3. 診察の技術</li> <li>4. 鍼灸施術の技術</li> <li>5. カルテ記載の的確さ</li> <li>6. 臨床記録の記入状況</li> <li>7. 出席状況（3分の2以上）</li> </ol> </li> <li>・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。                「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点                「不可」：59点以下             </li> </ul>		

教科書	著者名	
	出版社名	
参考書	著者名	
	出版社名	

回	講義内容	回	講義内容
1	オリエンテーション	31	臨床実践
2	オリエンテーション	32	臨床実践
3	臨床実践	33	臨床実践
4	臨床実践	34	臨床実践
5	臨床実践	35	臨床実践
6	臨床実践	36	臨床実践
7	臨床実践	37	臨床実践
8	臨床実践	38	臨床実践
9	臨床実践	39	臨床実践
10	臨床実践	40	臨床実践
11	臨床実践	41	臨床実践
12	臨床実践	42	臨床実践
13	臨床実践	43	臨床実践
14	臨床実践	44	臨床実践
15	臨床実践	45	臨床実践
16	臨床実践	46	臨床実践
17	臨床実践	47	臨床実践
18	臨床実践	48	臨床実践
19	臨床実践	49	臨床実践
20	臨床実践	50	臨床実践
21	臨床実践	51	臨床実践
22	臨床実践	52	臨床実践
23	臨床実践	53	臨床実践
24	臨床実践	54	臨床実践
25	臨床実践	55	臨床実践
26	臨床実践	56	臨床実践
27	臨床実践	57	臨床実践
28	臨床実践	58	臨床実践
29	臨床実践	59	臨床実践
30	臨床実践	60	臨床実践
備考			

## 鍼灸学科・昼間部・3年生（統合はり・きゅう学Ⅰ）

担当教員	長谷川直子・伊藤才二	単位・時間	3単位・45時間（30コマ）
教育目標	専門基礎分野および専門分野の総復習をし、国家試験の合格に必要な知識を習得する事を目的とする。		
授業内容	<p>以下の項目に準じて授業をおこなう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・統合はりきゅう学Ⅰ①：経絡経穴概論の総まとめ</li> <li>・統合はりきゅう学Ⅰ②：臨床医学総論の総まとめ</li> <li>・小テストや暗記テストを行い、習熟度を確認する。</li> </ul>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・統合はりきゅう学Ⅰ①～②それぞれの授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。</li> <li>・再試験は授業時間外に実施する。</li> <li>・成績評価にあたっては、中間試験2回、期末試験1回の平均得点数が60点以上のものを合格とする。</li> <li>・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下</li> </ul>		

教科書	経絡経穴概論	著者名	東洋療法学校協会 編
	臨床医学総論	出版社名	医道の日本社・医歯薬出版
参考書	その他配布資料	著者名	
		出版社名	



回	講義内容①	回	講義内容②
1	流注と骨度法	1	診察の概要と方法
2	正経十二経脈	2	生命徴候の診察
3	正経十二経脈	3	全身および局所の診察
4	正経十二経脈	4	神経系の診察
5	奇経と奇穴	5	運動機能検査
6	練習問題	6	臨床検査法
7	中間試験	7	中間試験
8	胸腹部横並び	8	おもな症状の診察法
9	腰背部横並び	9	おもな症状の診察法
10	上肢の横並び	10	おもな症状の診察法
11	下肢の横並び	11	おもな症状の診察法
12	顔面・頭の経穴	12	おもな症状の診察法
13	練習問題	13	おもな症状の診察法
14	期末試験	14	期末試験
15	まとめ	15	まとめ

## 鍼灸学科・昼間部・3年生（統合はり・きゅう学Ⅱ）

担当教員	岸野 庸平	単位・時間	4単位・60時間（40コマ）
教育目標	国家試験に合格することのできる総合的学力を身につけることを目標とする。		
授業内容	医療概論・公衆衛生学・関係法規・解剖学・生理学・病理学・臨床医学総論・臨床医学各論・リハビリテーション医学・東洋医学概論・経絡経穴概論・東洋医学臨床論・はりきゅう理論等について、担当の教員が講義を行う。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。</li> <li>・ 授業時間の中で合同模試3回、中間試験6回と期末試験を実施する。</li> <li>・ 再試験は授業時間外に実施する。</li> <li>・ 成績評価             <ul style="list-style-type: none"> <li>① 合同模試3回、中間試験6回と期末試験の成績。</li> <li>② 出席状況。</li> <li>③ 授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。</li> </ul> </li> <li>・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。              「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点              「不可」：59点以下</li> </ul>		

教科書		著者名	
		出版社名	
参考書		著者名	

回	講義内容	回	講義内容
1	第1回合同模試	21	第3回合同模試
2	第1回合同模試	22	第3回合同模試
3	第1回合同模試解説	23	第3回合同模試解説
4	第1回合同模試解説	24	第3回合同模試解説
5	第1回中間試験	25	第4回中間試験
6	第1回中間試験	26	第4回中間試験
7	第1回中間試験解説	27	第4回中間試験解説
8	第1回中間試験解説	28	第4回中間試験解説
9	第2回中間試験	29	第5回中間試験
10	第2回中間試験	30	第5回中間試験
11	第2回中間試験解説	31	第5回中間試験解説
12	第2回中間試験解説	32	第5回中間試験解説
13	第2回合同模試	33	第6回中間試験
14	第2回合同模試	34	第6回中間試験
15	第2回合同模試解説	35	第6回中間試験解説
16	第2回合同模試解説	36	第6回中間試験解説
17	第3回中間試験	37	第4回合同模試（期末試験）
18	第3回中間試験	38	第4回合同模試（期末試験）
19	第3回中間試験解説	39	第4回合同模試解説
20	第3回中間試験解説	40	第4回合同模試解説